

性的少数者に関するアンケート 結果報告書

令和2年2月



目 次

第Ⅰ章 調査の概要	1	問21.アライであることを表明しない理由	27
第Ⅱ章 調査結果		問22.性的少数者であることのカミングアウト状況	28
問1.回答者の年代	4	問23.当事者(性的少数者)であることをカミングアウトしない理由	29
問2.現在の居住地	5	問24.同居者の状況	30
問3.居住経験地域	6	問25.性的少数者であることが要因で暴力などを受けた経験	31
問4.出生時の戸籍上の性別	7	問26.性的少数者であることが要因で暴力などを受けた時期	32
問5.性自認	7	問27.性的少数者であることが要因で暴力などを受けた相手	33
問6.性的指向	8	問28.悩みや困りごとの相談先	34
問7.現在の職業	9	問29.当事者(性的少数者)本人の悩みや困りごと	36
問8.現在の経済的な生活状況	10	問30.知人である性的少数者の悩みや困りごと	38
問9.これまでの健康上の問題	11	問31.地域社会に望む取り組み	40
問10.メンタルヘルスなどに関する状況	12	問32.性的少数者の実態等に関すること	42
問11.当事者(性的少数者)である知人の人数	13	[付録]	
問12.性的少数者に関する県内取り組みの認知度	14	補足データ及び問31・問32自由記述抜粋	44
問13.県内学校での性的少数者についての学びの経験	15		
問14.県内の学校における性的少数者に関する取り組み状況	18		
問15.県内の学校における性的少数者に関するサポート利用状況	20		
問16.県内の学校で性的少数者に関するサポートはあったが 利用しなかった理由	21		
問17.県内の職場における性的少数者に関する取り組み状況	22		
問18.県内の職場における性的少数者に関するサポート利用状況	23		
問19.県内の職場で性的少数者に関するサポートはあるが 利用しない理由	24		
問20.アライであることの表明状況	25		

第 I 章 調査の概要

1. 調査目的

長崎県内における性的少数者の方を取り巻く課題や実態を把握し、今後の施策を推進していくうえでの基礎資料とする。

2. 調査対象者

長崎県内に居住している方または居住経験のある方

3. 調査期間

令和元年6月24日～令和元年8月10日

4. 調査方法

- (1) 長崎県のホームページ上にアンケートWEBページを開設して調査を行った。
- (2) 本調査は、回答者を無作為に選び回答を依頼したのではなく、県ホームページへの掲載やポスター掲示、チラシ配置等による周知のほか、調査委託先(性的少数者支援団体)の各種活動への参加者やその知人の方へ周知を行い、調査対象者であればどなたでも回答できるものとした。
- (3) このため、8の(6)で示している各セクシュアリティ分類の回答者割合並びに各質問の回答割合は、県民全体の傾向と捉えることはできないことに留意する必要がある。

5. 回答者数

688人

6. 調査主体

長崎県(県民生活部 人権・同和対策課)

7. 調査委託先

Take it! 虹 (ていく・いっと・にいい)

8. 報告書の見方・留意点

- (1) 表・グラフの「見出し」は、質問の内容に沿ってできるだけ簡略化した。
- (2) 割合は百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。そのため、割合の合計が100%にならない場合がある。また、回答数が少数の場合に0.0%となる場合がある。
- (3) 各質問において、質問対象者数(実数)を「n」として掲載した。
- (4) 「複数回答可」としている質問においては、各選択肢の回答数を「n」により割り戻しているため、割合の合計が100%を上回る場合がある。

(5) 報告書内の用語解説

性的少数者	LGBT(レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー)などの総称
セクシュアリティ	性のあり方のこと。出生時の戸籍上の性別(からだの性)や性自認(こころの性)、性的指向(恋愛対象)に関する意識や行動。
レズビアン	性自認(こころの性)が女性で、性的指向(恋愛対象)も女性の人
ゲイ	性自認(こころの性)が男性で、性的指向(恋愛対象)も男性の人
バイセクシュアル	性的指向(恋愛対象)が女性にも男性にも向いている人
トランスジェンダー	出生時の戸籍上の性別(からだの性)と性自認(こころの性)が一致しない人又は違和感を持つ人
Xジェンダー	男女の性を明確に自認していない人(両性、中性、無性、不定性の人など)
パンセクシュアル	性的指向(恋愛対象)が女性または男性、あるいはXジェンダーなど相手の性別を問わない人
Aセクシュアル	恋愛感情を抱かない人
アライ	性的少数者当事者ではないが、性的少数者への支援の気持ちを持つ人の総称
カミングアウト	自分自身の性のあり方や想いなどを表明すること
パートナーシップ制度	一方又は双方が性的少数者である二人が、互いを人生のパートナーとして、相互の協力により、継続的に共同生活を行う関係であることを、自治体が証明書を交付、又はそのような内容の宣誓書の受領証を交付するもの。但し、婚姻のような法的効力はない。

(6) この報告書においては、問4～問6の回答によって、セクシュアリティを下記のとおり分類し、表・グラフ等に表している。

本調査回答者のセクシュアリティ分類					
問4:出生時の戸籍上の性別	問5:性自認	問6:性的指向	セクシュアリティ分類	回答者数	割合(%)
1. 女性	1. 女性	1. 異性愛	CH	270	39.2
		2. 同性愛	非異性愛者(LGB 他)	23	3.3
		3. 両性愛/全性愛	非異性愛者(LGB 他)	44	6.4
		4. 無性愛、5. わからない、6. その他	非異性愛者(LGB 他)	42	6.1
	2. 男性		T	15	2.2
2. 男性	3. Xジェンダー、 4. わからない、5. その他		T	43	6.3
			T	15	2.2
2. 男性	2. 男性	1. 異性愛	CH	165	24.0
		2. 同性愛	非異性愛者(LGB 他)	35	5.1
		3. 両性愛/全性愛	非異性愛者(LGB 他)	18	2.6
		4. 無性愛、5. わからない、6. その他	非異性愛者(LGB 他)	6	0.9
	3. Xジェンダー、 4. わからない、5. その他		T	12	1.7
合計				688	100.0

※1 / T :トランスジェンダー

非異性愛者:出生時の戸籍上の性別(からだの性)と性自認(こころの性)が一致している人で、かつ、性的指向において、同性愛や両性愛、全性愛、無性愛、わからない、その他を選択された方の総称

CH :出生時の戸籍上の性別(からだの性)と性自認(こころの性)が一致している人(Cisgender:シスジェンダー)で、かつ、性的指向において、異性愛を選択された方(Heterosexual:ヘテロセクシュアル)の略称

*この報告書において、「T及び非異性愛者」を性的少数者又は当事者としている。

※2 / Tの中には、L(レズビアン)、G(ゲイ)、B(バイセクシュアル)などの性的指向の方もいるが、この調査では、そのような方も含めTとして分類した。

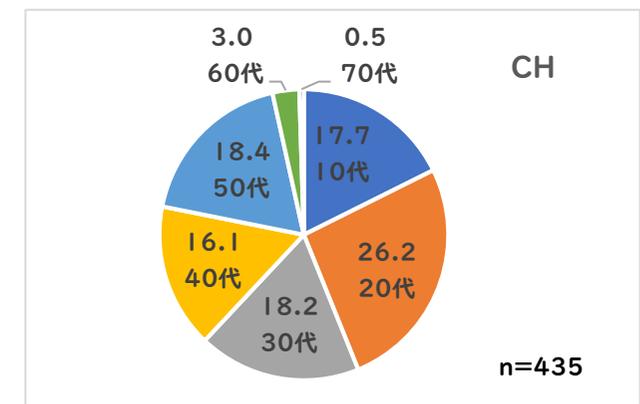
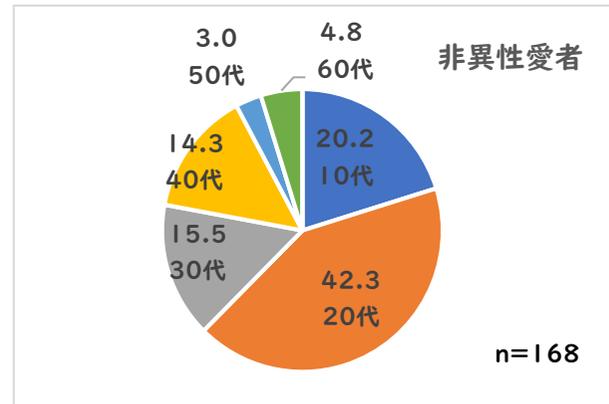
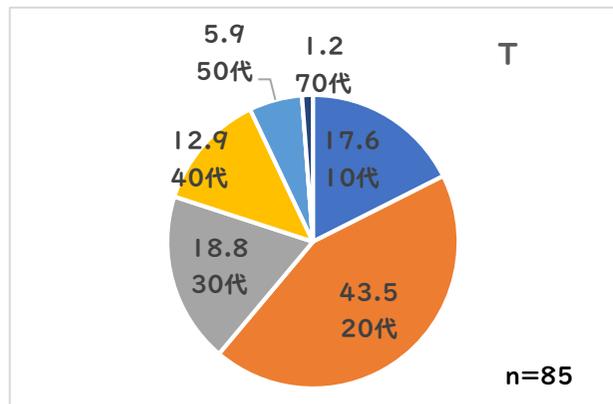
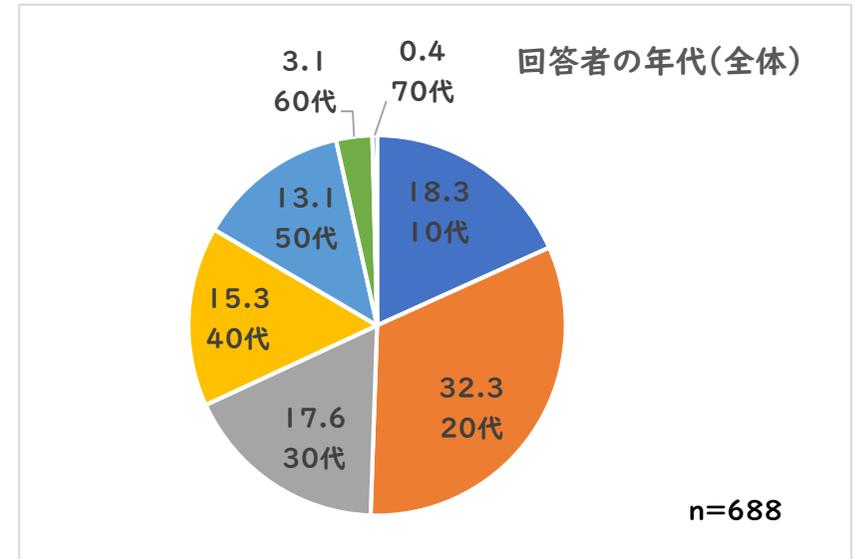
なお、本調査におけるTの方の性的指向は、「問6」に詳細を掲載

※3 / この調査は、回答される方を無作為で選んだものではなく、性的少数者支援団体の各種活動への参加者やその知人の方などを中心にアンケート実施の周知を行ったことから、セクシュアリティ分類の各割合が、県民全体の傾向と捉えることはできない。

第Ⅱ章 調査結果

■問1.あなたの年齢を教えてください。(平成31年4月1日現在)【回答必須】

回答者の年代								
	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
10代	15	17.6	34	20.2	77	17.7	126	18.3
20代	37	43.5	71	42.3	114	26.2	222	32.3
30代	16	18.8	26	15.5	79	18.2	121	17.6
40代	11	12.9	24	14.3	70	16.1	105	15.3
50代	5	5.9	5	3.0	80	18.4	90	13.1
60代	0	0.0	8	4.8	13	3.0	21	3.1
70代	1	1.2	0	0.0	2	0.5	3	0.4
合計	85	100.0	168	100.0	435	100.0	688	100.0
n	85		168		435		688	

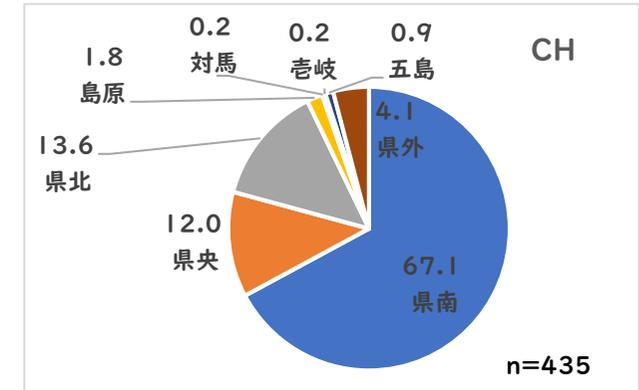
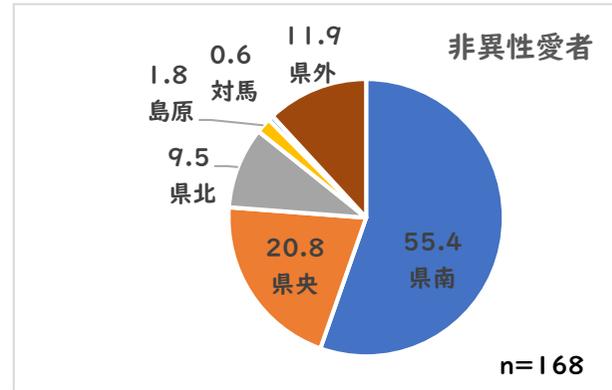
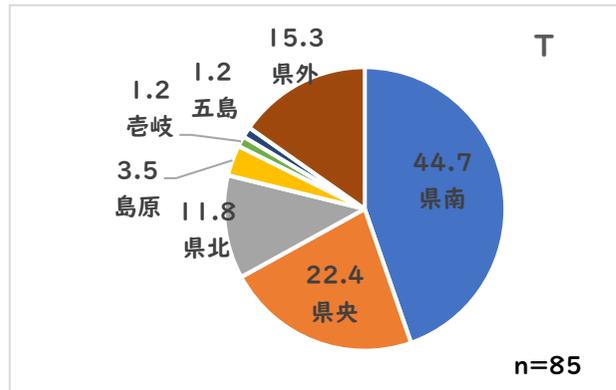
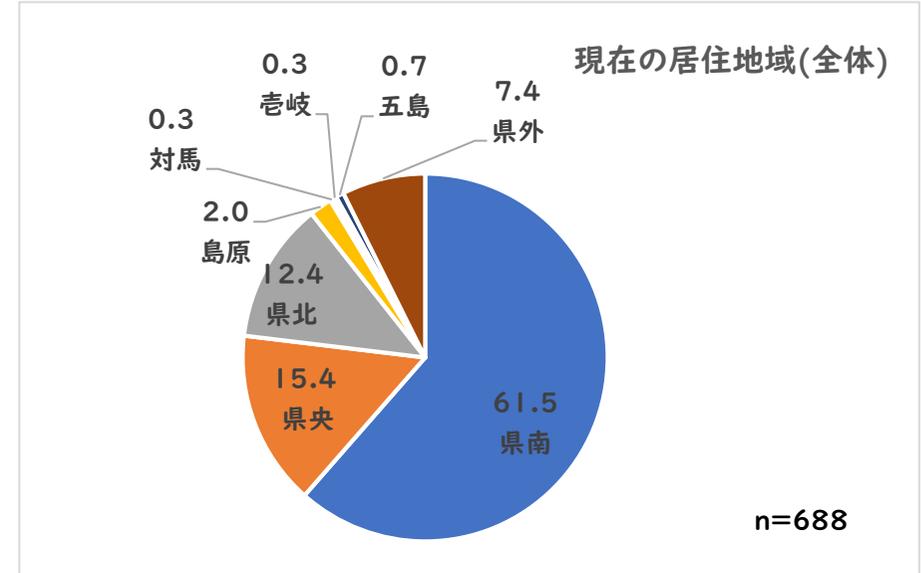


- ・本調査では、10歳未満及び80歳以上の回答者はいなかった。
- ・全体では、20代、10代の順で、若年層の回答者が多い。
- ・T、非異性愛者においては、20代の回答の多さが顕著である。

■問 2.あなたが現在住んでいる地域はどこですか。【回答必須】

【選択肢の地域区分】県南：長崎市・西海市・西彼杵郡/県央：諫早市・大村市/県北：佐世保市・平戸市・松浦市・東彼杵郡・北松浦郡/島原：島原市・雲仙市・南島原市/対馬：対馬市/壱岐：壱岐市/五島：五島市・新上五島町

現在の居住地								
	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.県南	38	44.7	93	55.4	292	67.1	423	61.5
2.県央	19	22.4	35	20.8	52	12.0	106	15.4
3.県北	10	11.8	16	9.5	59	13.6	85	12.4
4.島原	3	3.5	3	1.8	8	1.8	14	2.0
5.対馬	0	0.0	1	0.6	1	0.2	2	0.3
6.壱岐	1	1.2	0	0.0	1	0.2	2	0.3
7.五島	1	1.2	0	0.0	4	0.9	5	0.7
8.県外	13	15.3	20	11.9	18	4.1	51	7.4
合計	85	100.0	168	100.0	435	100.0	688	100.0
n	85		168		435		688	

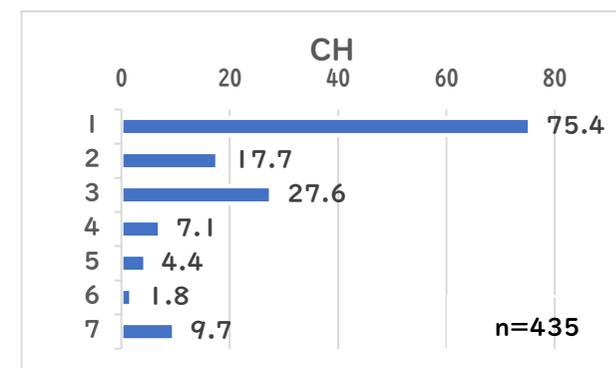
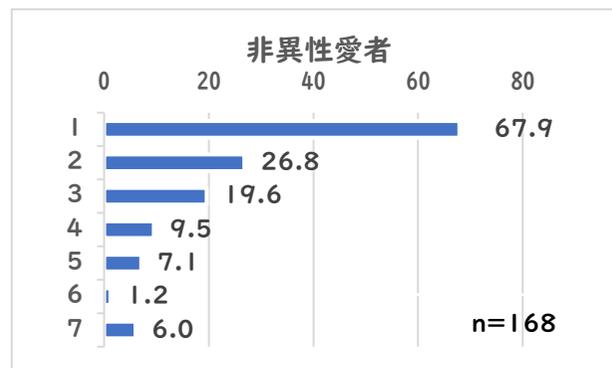
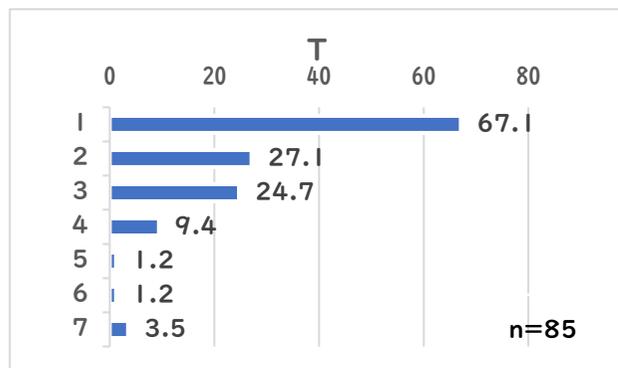
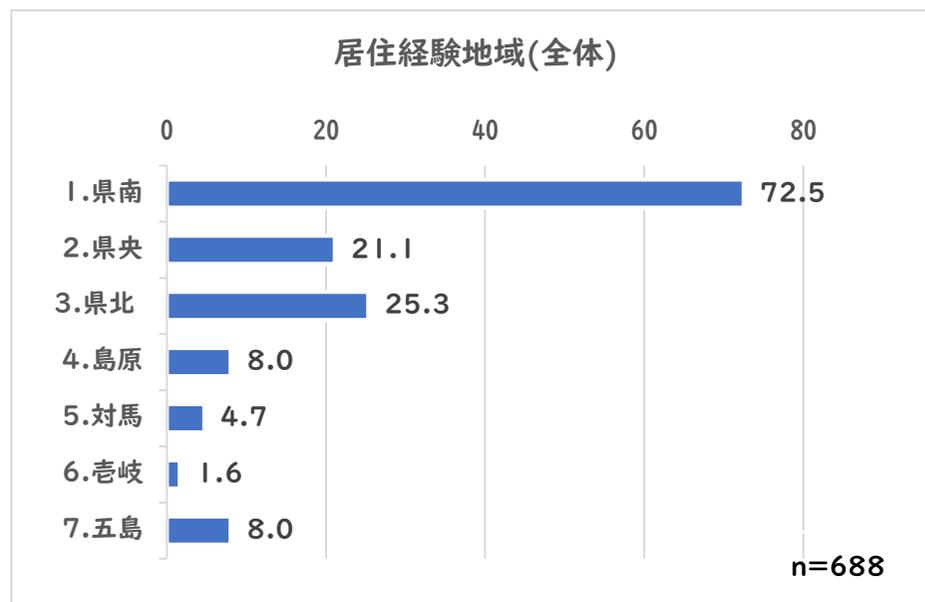


- ・本調査の実施にあたっては、県ホームページへの掲載や県内公共施設へのポスター掲示、周知カードの配置等による周知以外に、主に長崎市やその周辺地域を拠点とする性的少数者支援団体の各種活動への参加者やその知人の方へ周知を図ったことから、県南地域の回答率が非常に高くなったと思われる。
- ・上記のことから、居住地の割合に大きな差はあるものの、県内全てのどの地域にも性的少数者の方が居住されている。
- ・現在県外に居住の方(51人)からも回答を得たが、これらの方は過去に県内に居住経験のある方である。

■問 3.あなたが住んだことのある県内の地域はどこですか。現在住んでいる県内地域も含めて回答してください。【回答必須】【複数回答可】

【選択肢の地域区分】(問2と同じ)

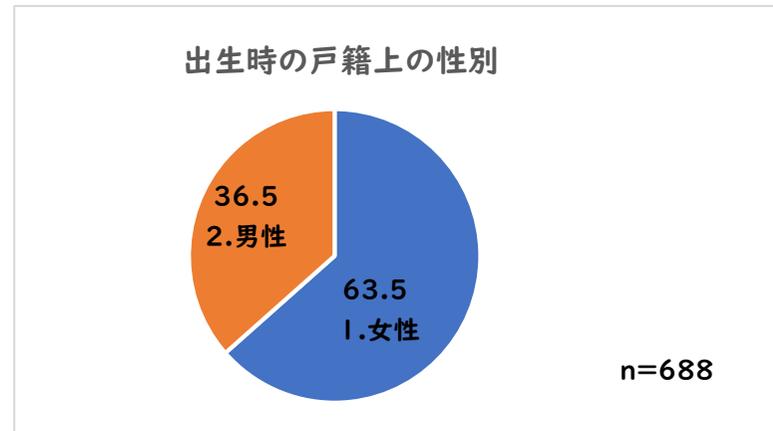
居住経験地域								
	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.県南	57	67.1	114	67.9	328	75.4	499	72.5
2.県央	23	27.1	45	26.8	77	17.7	145	21.1
3.県北	21	24.7	33	19.6	120	27.6	174	25.3
4.島原	8	9.4	16	9.5	31	7.1	55	8.0
5.対馬	1	1.2	12	7.1	19	4.4	32	4.7
6.壱岐	1	1.2	2	1.2	8	1.8	11	1.6
7.五島	3	3.5	10	6.0	42	9.7	55	8.0
合計	114	-	232	-	625	-	971	-
n	85		168		435		688	



・現在の居住地域が県南地域である方からの回答が多いため、これまでに県内で居住された地域に大きな差はあるものの、どの地域にも性的少数者の方が居住されていた、あるいはされている。

■問 4.あなたの出生時の戸籍や出生届に記載された性別を教えてください。【回答必須】

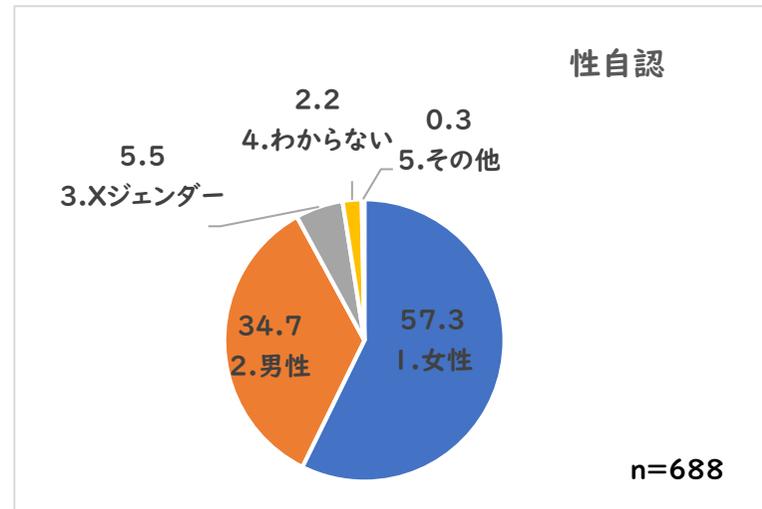
出生時の戸籍上の性別		
	合計	
	回答数	割合
1.女性	437	63.5
2.男性	251	36.5
合計	688	100.0
n	688	



■問 5.あなたの自認している性別を教えてください。【回答必須】

[補足]Xジェンダー：男女の性を明確に自認していない人。例えば、両性、中性、無性、不定性の人など。

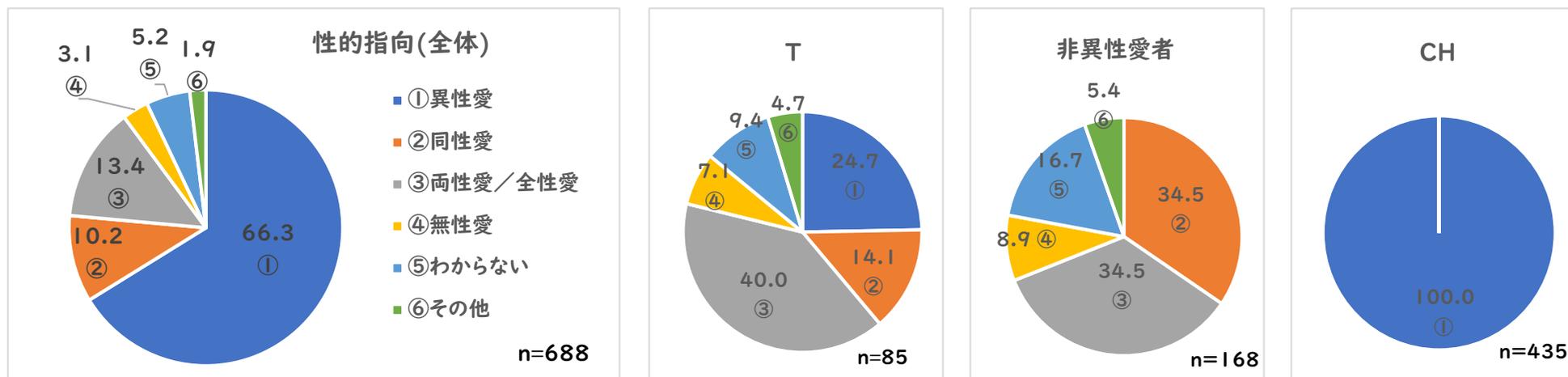
性自認		
	合計	
	回答数	割合
1.女性	394	57.3
2.男性	239	34.7
3.Xジェンダー	38	5.5
4.わからない	15	2.2
5.その他	2	0.3
合計	688	100.0
n	688	



■問 6.あなたの恋愛や性愛の傾向を教えてください。【回答必須】

性的指向								
	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
①異性愛(ヘテロセクシュアル)	21	24.7	0	0.0	435	100.0	456	66.3
②同性愛(ゲイ・レズビアン)	12	14.1	58	34.5	0	0.0	70	10.2
③両性愛/全性愛(バイセクシュアル/パンセクシュアル)	34	40.0	58	34.5	0	0.0	92	13.4
④無性愛(アセクシュアル・エイセクシュアル)<恋愛感情がわからない>	6	7.1	15	8.9	0	0.0	21	3.1
⑤わからない	8	9.4	28	16.7	0	0.0	36	5.2
⑥その他	4	4.7	9	5.4	0	0.0	13	1.9
合計	85	100.0	168	100.0	435	100.0	688	100.0
n	85		168		435		688	

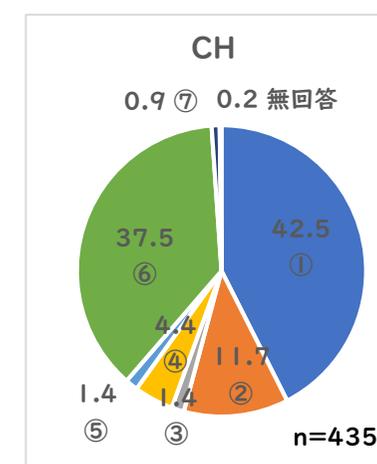
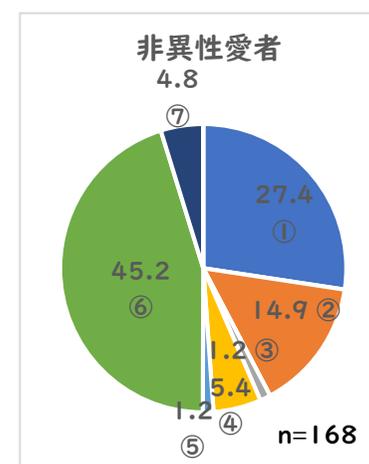
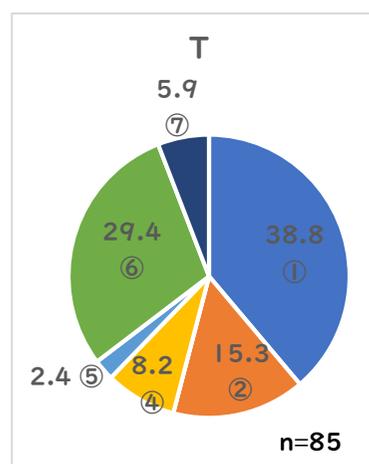
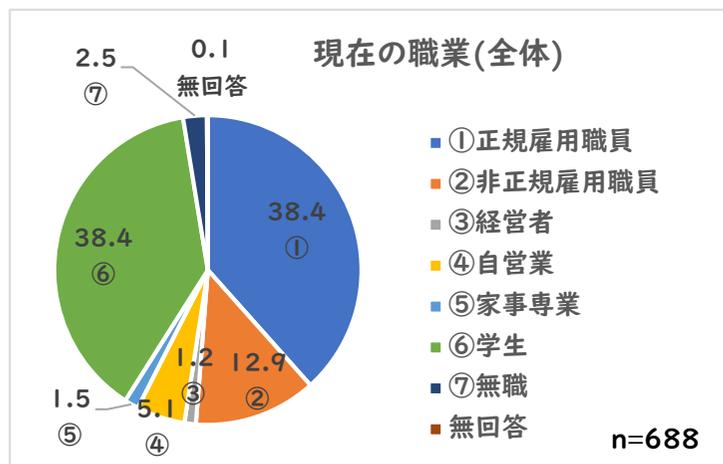
「その他」の主な記述内容： 対物性愛者 / ノンセクシュアル / ホモフレキシブル



・本調査の報告書では、Tを性的指向では細分化せずに全てTとして分類しているが、Tにおいても性的指向に多様性がみられる。また、非異性愛者の中にも多様性があることがわかる。

■問 7.あなたの現在の職業は何ですか。 [補足]次の選択肢の中で一番近いものを選んでください。

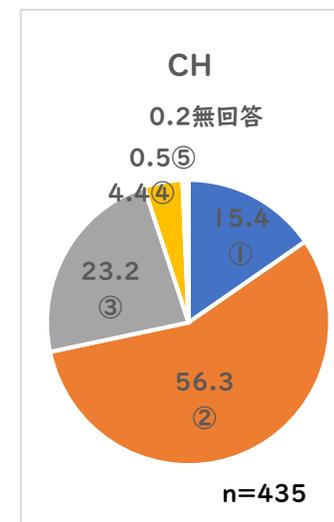
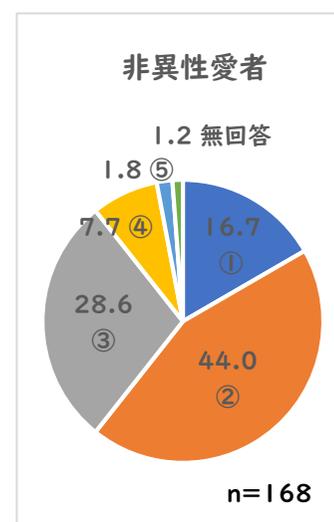
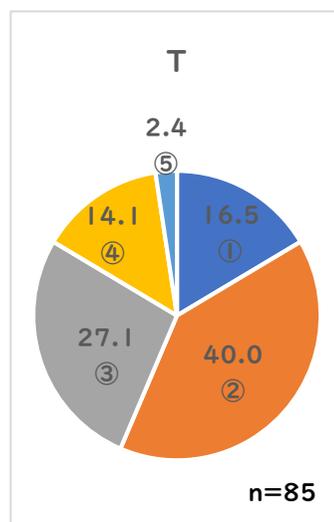
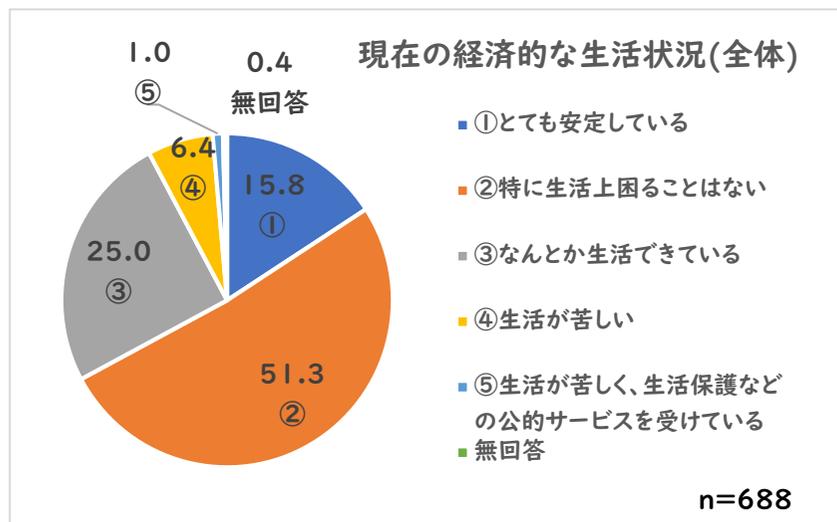
現在の職業								
	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
①会社・団体等職員(正規雇用職員)	33	38.8	46	27.4	185	42.5	264	38.4
②会社・団体等職員(非正規雇用職員：パート・アルバイトなど)	13	15.3	25	14.9	51	11.7	89	12.9
③経営者	0	0.0	2	1.2	6	1.4	8	1.2
④自営業	7	8.2	9	5.4	19	4.4	35	5.1
⑤家事専業	2	2.4	2	1.2	6	1.4	10	1.5
⑥学生	25	29.4	76	45.2	163	37.5	264	38.4
⑦無職	5	5.9	8	4.8	4	0.9	17	2.5
無回答	0	0.0	0	0.0	1	0.2	1	0.1
合計	85	100.0	168	100.0	435	100.0	688	100.0
n	85		168		435		688	



・全体では、「①会社・団体等職員(正規雇用職員)」と「⑥学生」の割合が同数(38.4%)で最も高く、次いで「②会社・団体等職員(非正規雇用職員)」(12.9%)の順となっている。

■問 8.あなたの生活の状況は、経済的に次のどれにあてはまるとお考えですか。

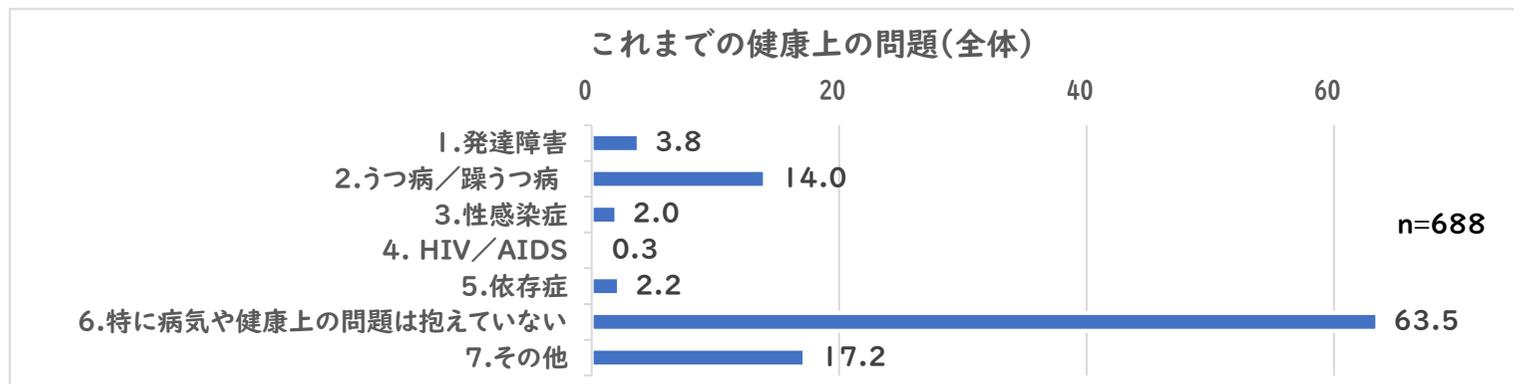
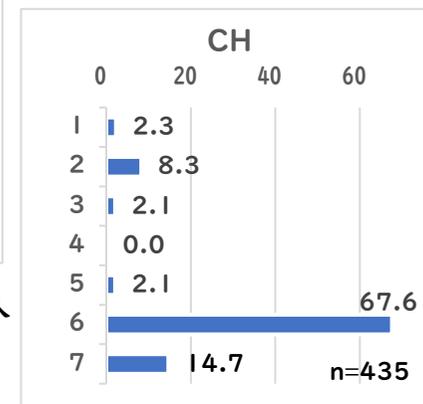
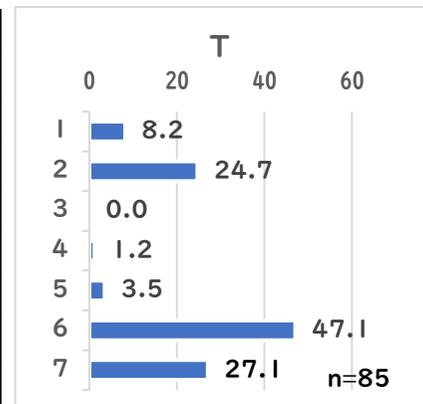
現在の経済的な生活状況								
	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
①とても安定している	14	16.5	28	16.7	67	15.4	109	15.8
②特に生活上困ることはない	34	40.0	74	44.0	245	56.3	353	51.3
③なんとか生活できている	23	27.1	48	28.6	101	23.2	172	25.0
④生活が苦しい	12	14.1	13	7.7	19	4.4	44	6.4
⑤生活が苦しく、生活保護などの公的サービスを受けている	2	2.4	3	1.8	2	0.5	7	1.0
無回答	0	0.0	2	1.2	1	0.2	3	0.4
合計	85	100.0	168	100.0	435	100.0	688	100.0
n	85		168		435		688	



■問9.あなたは、現在も含めこれまでに、病気や健康上の問題などを抱えたことがありますか。【複数回答可】

これまでの健康上の問題								
	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.発達障害(自閉症スペクトラム・ADHD・学習障害など)	7	8.2	9	5.4	10	2.3	26	3.8
2.うつ病/躁うつ病	21	24.7	39	23.2	36	8.3	96	14.0
3.性感染症	0	0.0	5	3.0	9	2.1	14	2.0
4. HIV/AIDS(エイズ)	1	1.2	1	0.6	0	0.0	2	0.3
5.依存症(アルコール・ギャンブル・薬物など)	3	3.5	3	1.8	9	2.1	15	2.2
6.特に病気や健康上の問題は抱えていない	40	47.1	103	61.3	294	67.6	437	63.5
7.その他	23	27.1	31	18.5	64	14.7	118	17.2
無回答	4	4.7	3	1.8	30	6.9	37	5.4
合計	99	-	194	-	452	-	745	-
n	85		168		435		688	

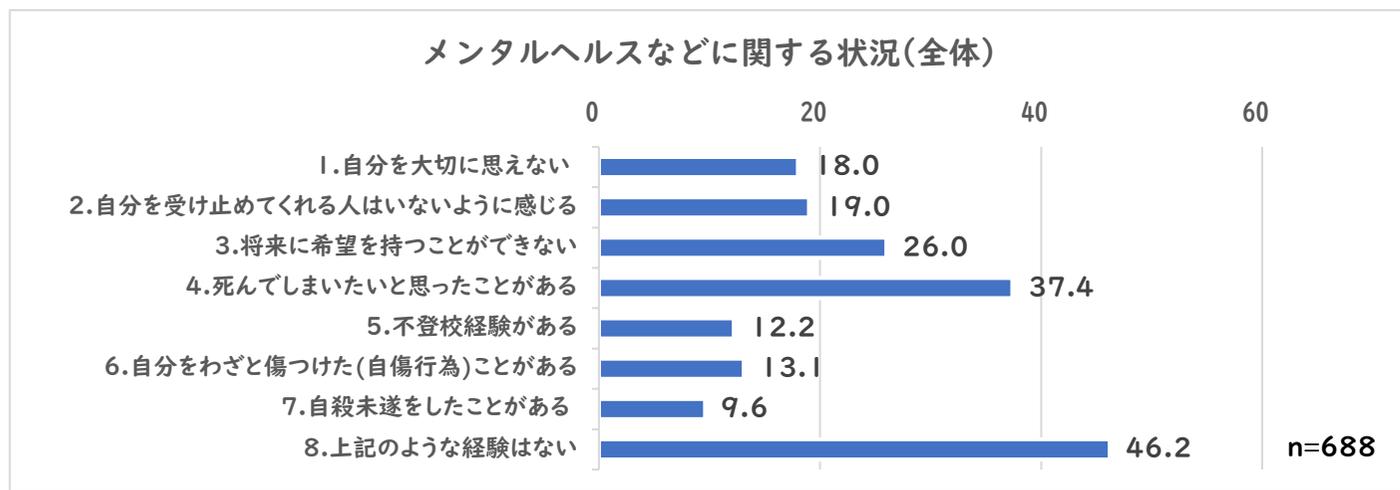
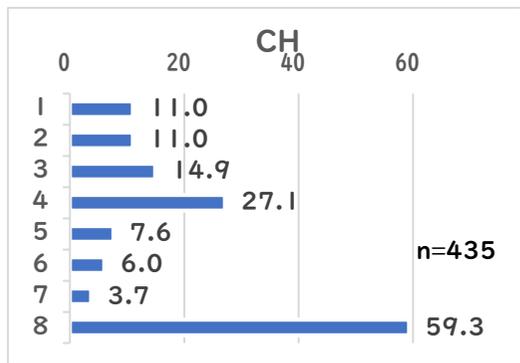
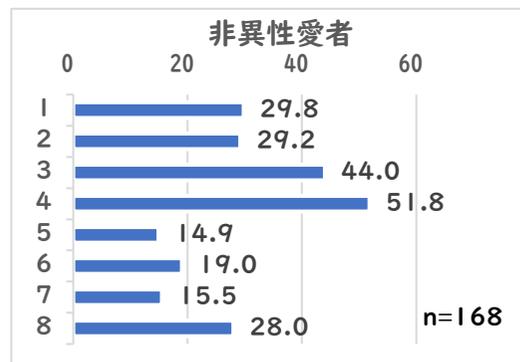
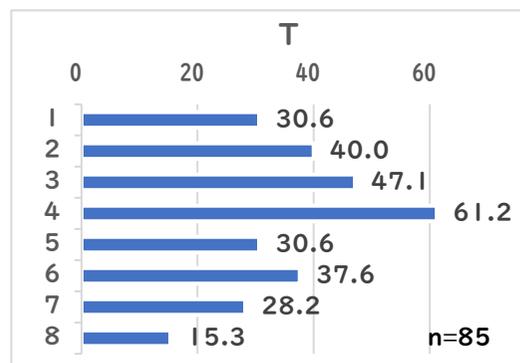
「その他」の主な記述内容：パニック障害 / 癌 / 同性愛者であることのストレスによる不眠症と耳鳴り / 心臓疾患 / 摂食障害 / 適応障害 / 対人恐怖症



・「6.特に病気や健康上の問題は抱えていない」以外のいずれかを回答された方の実人数は、Tが85人のうち42人(49.4%)、非異性愛者が168人のうち63人(37.5%)、CHが435人のうち112人(25.7%)であった。

■問 10.現在も含めこれまでの、あなた自身について回答してください。【複数回答可】

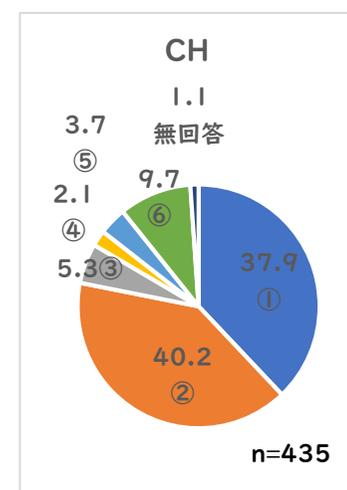
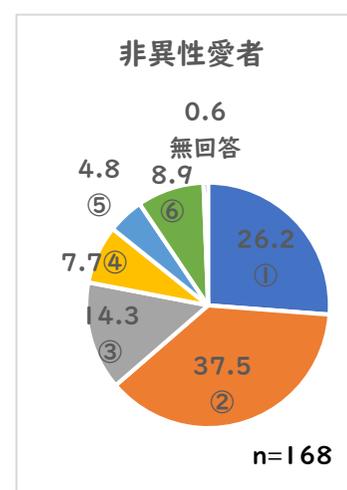
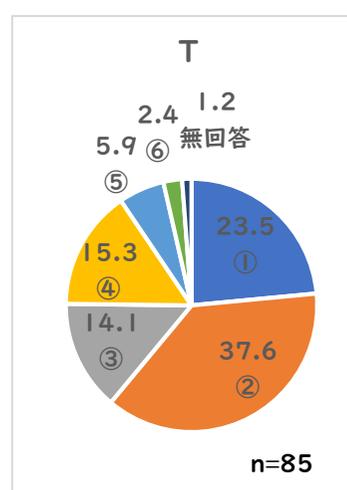
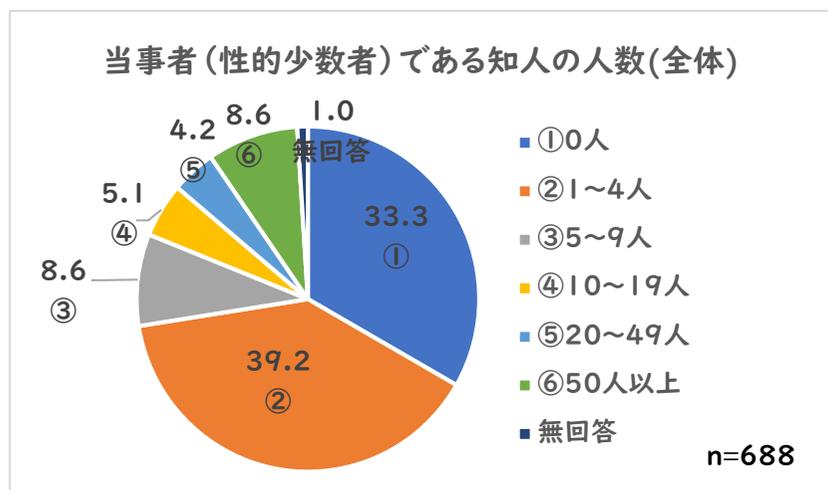
メンタルヘルスなどに関する状況								
	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.自分を大切に思えない	26	30.6	50	29.8	48	11.0	124	18.0
2.自分を受け止めてくれる人はいないように感じる	34	40.0	49	29.2	48	11.0	131	19.0
3.将来に希望を持つことができない	40	47.1	74	44.0	65	14.9	179	26.0
4.死んでしまいたいと思ったことがある	52	61.2	87	51.8	118	27.1	257	37.4
5.不登校経験がある	26	30.6	25	14.9	33	7.6	84	12.2
6.自分をわざと傷つけた(自傷行為)ことがある	32	37.6	32	19.0	26	6.0	90	13.1
7.自殺未遂をしたことがある	24	28.2	26	15.5	16	3.7	66	9.6
8.上記のような経験はない	13	15.3	47	28.0	258	59.3	318	46.2
無回答	1	1.2	2	1.2	8	1.8	11	1.6
合計	248	-	392	-	620	-	1,260	-
n	85		168		435		688	



・T、非異性愛者においては、「4.死んでしまいたいと思ったことがある」の割合が最も高く、CHにおいては、「8.上記のような経験はない」が最も多い。

■問11.あなたには当事者の知り合いが何人いますか。 [補足]インターネット上ではなく、対面での知り合いの方の人数をお答えください。

当事者(性的少数者)である知人の人数								
	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
①0人	20	23.5	44	26.2	165	37.9	229	33.3
②1~4人	32	37.6	63	37.5	175	40.2	270	39.2
③5~9人	12	14.1	24	14.3	23	5.3	59	8.6
④10~19人	13	15.3	13	7.7	9	2.1	35	5.1
⑤20~49人	5	5.9	8	4.8	16	3.7	29	4.2
⑥50人以上	2	2.4	15	8.9	42	9.7	59	8.6
無回答	1	1.2	1	0.6	5	1.1	7	1.0
合計	85	100.0	168	100.0	435	100.0	688	100.0
n	85		168		435		688	



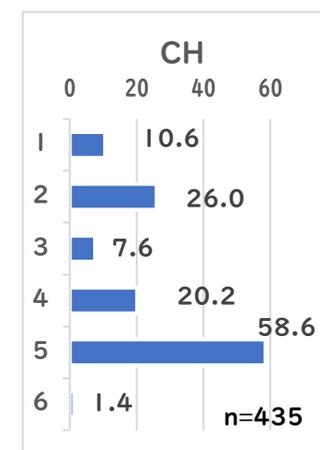
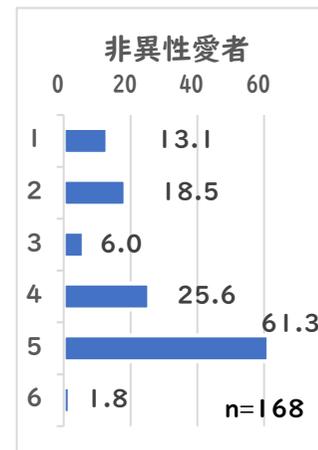
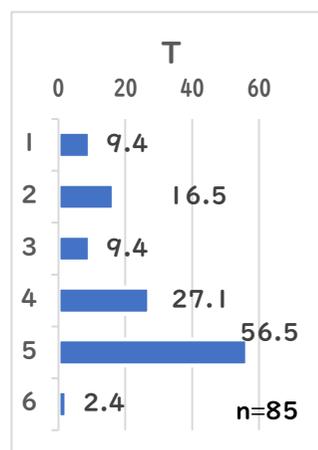
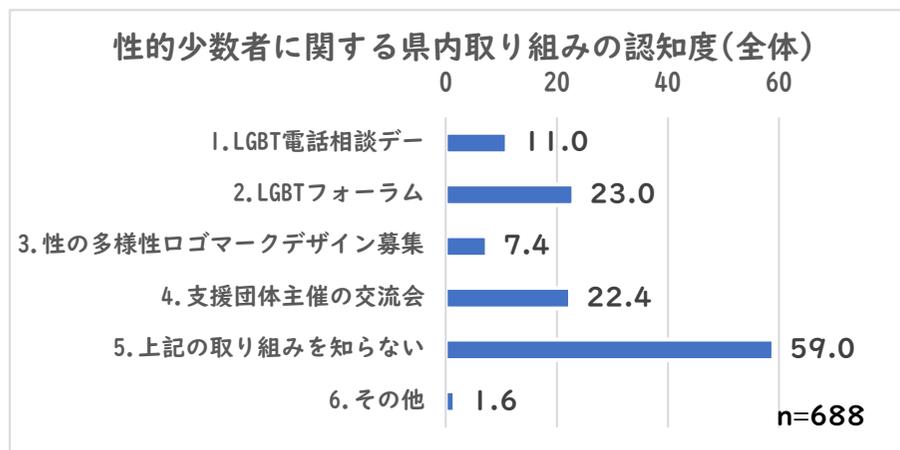
・性的少数者支援団体の各種活動への参加者やその知人の方などを中心にアンケート実施の周知を行ったことから、CHにおいても、対面での当事者(性的少数者)である知人がいる方が多くなったと考えられる。

■問 12.長崎県内で最近行われている性的少数者に関する次の取り組みで、知っているものはありますか。【複数回答可】

〔補足〕1.LGBT 電話相談デー：長崎県が開設（毎月第3土曜日 9時30分～13時 TEL090-5939-5095） 2.LGBT フォーラム：長崎県が平成30年11月21日に、長崎大学中部講堂で開催 3.性の多様性ロゴマークデザイン募集：長崎県が平成30年7～9月に中・高・大学生等を対象に募集、同年11月に優秀作品発表

性的少数者に関する県内取り組みの認知度								
	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.LGBT 電話相談デー	8	9.4	22	13.1	46	10.6	76	11.0
2.LGBT フォーラム	14	16.5	31	18.5	113	26.0	158	23.0
3.性の多様性ロゴマークデザイン募集	8	9.4	10	6.0	33	7.6	51	7.4
4.支援団体主催の交流会	23	27.1	43	25.6	88	20.2	154	22.4
5.上記の取り組みを知らない	48	56.5	103	61.3	255	58.6	406	59.0
6.その他	2	2.4	3	1.8	6	1.4	11	1.6
無回答	1	1.2	3	1.8	7	1.6	11	1.6
合計	104	-	215	-	548	-	867	-
n	85		168		435		688	

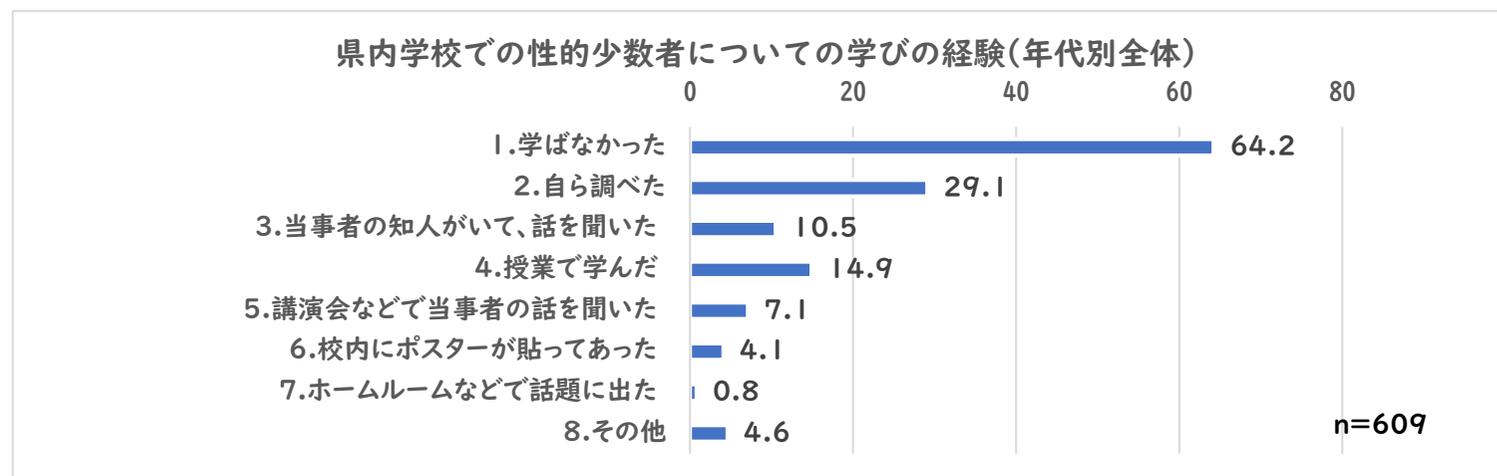
「その他」の主な記述内容：パートナーシップ制度 / ながさき愛の映画祭 / ヒューマンライブラリー

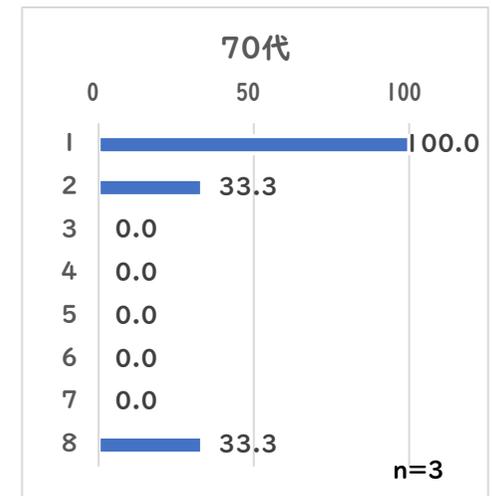
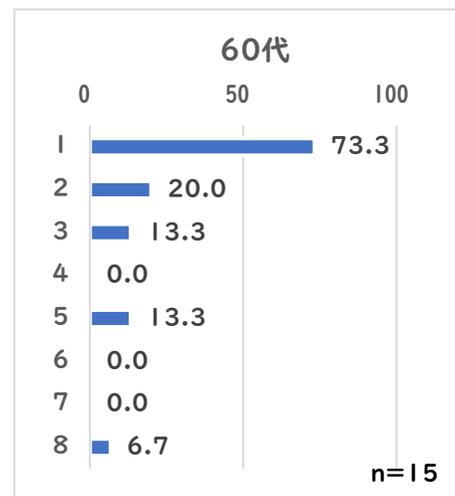
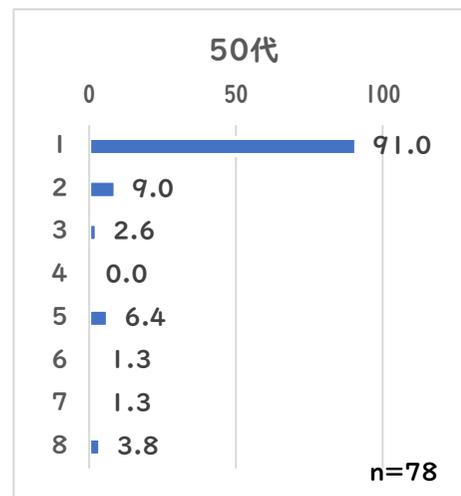
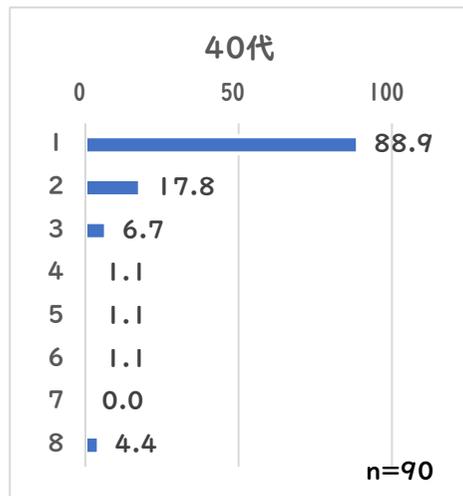
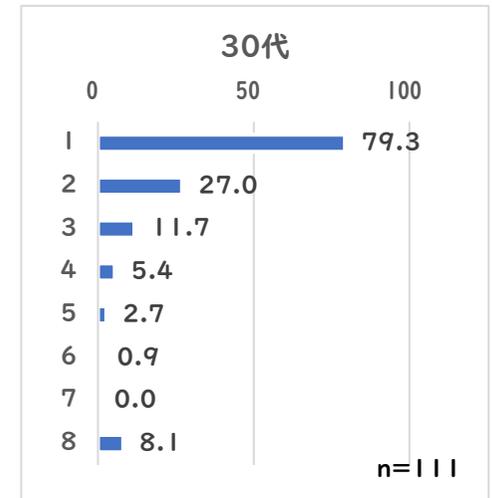
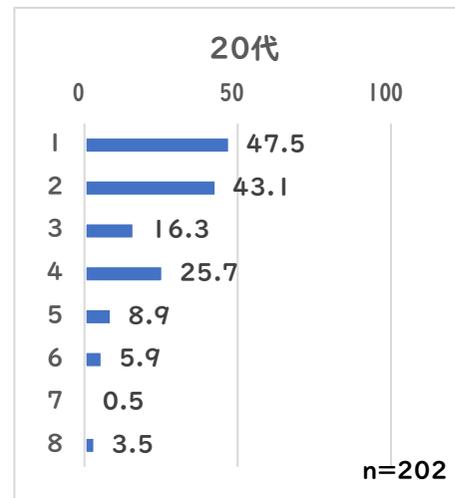
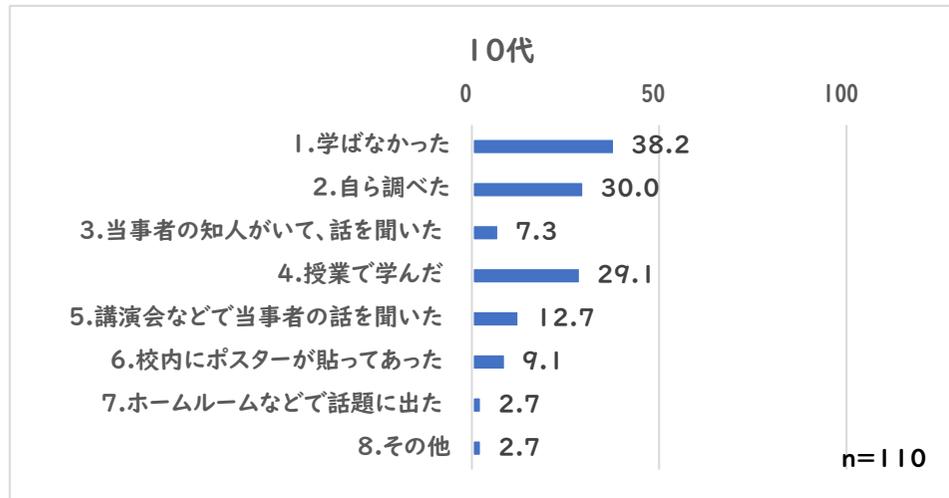


- ・県内で取り組まれている回答選択肢 1～4 の活動を全く知らないと回答したのは、全体で 59.0%に上った。
- ・全体を通して、取り組みの認知度は低い状況にある。

■問 13. 県内の学校に通われた又は通われている方にお尋ねします。県内の学校で性的少数者について学びましたか。【複数回答可】

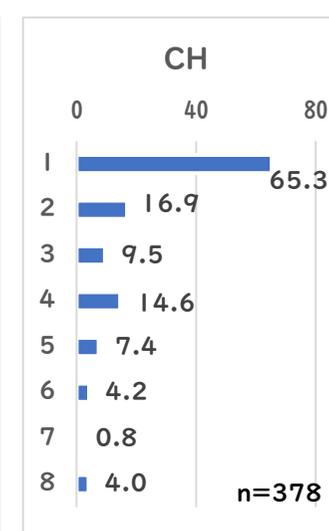
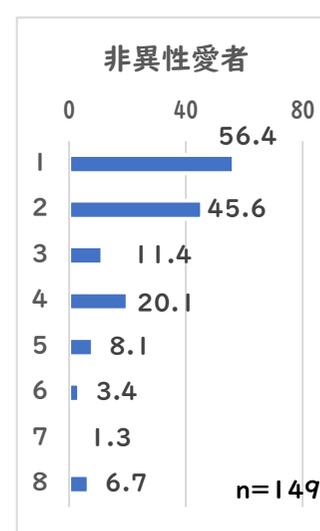
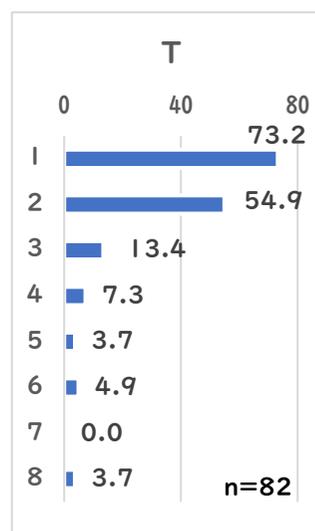
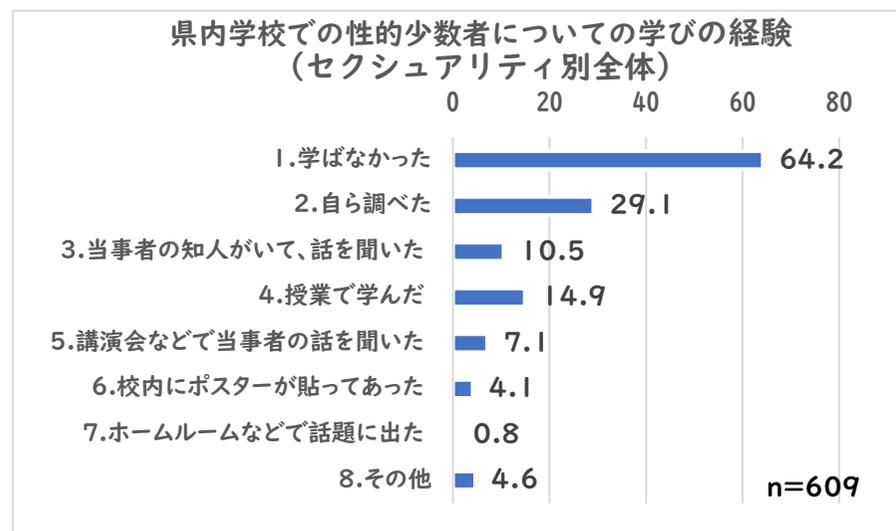
県内学校での性的少数者についての学びの経験																
【年代別】	10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		合計	
	回答数	割合	回答数	割合												
1.学ばなかった	42	38.2	96	47.5	88	79.3	80	88.9	71	91.0	11	73.3	3	100.0	391	64.2
2.自ら調べた	33	30.0	87	43.1	30	27.0	16	17.8	7	9.0	3	20.0	1	33.3	177	29.1
3.当事者の知人がいて、話を聞いた	8	7.3	33	16.3	13	11.7	6	6.7	2	2.6	2	13.3	0	0.0	64	10.5
4.授業で学んだ	32	29.1	52	25.7	6	5.4	1	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	91	14.9
5.講演会などで当事者の話を聞いた	14	12.7	18	8.9	3	2.7	1	1.1	5	6.4	2	13.3	0	0.0	43	7.1
6.校内にポスターが貼ってあった	10	9.1	12	5.9	1	0.9	1	1.1	1	1.3	0	0.0	0	0.0	25	4.1
7.ホームルームなどで話題に出た	3	2.7	1	0.5	0	0.0	0	0.0	1	1.3	0	0.0	0	0.0	5	0.8
8.その他	3	2.7	7	3.5	9	8.1	4	4.4	3	3.8	1	6.7	1	33.3	28	4.6
合計	145	-	306	-	150	-	109	-	90	-	19	-	5	-	824	-
n	110		202		111		90		78		15		3		609	





- ・「1.学ばなかった」と回答した方は、10代で38.2%、20代で47.5%であり、30代以上の年代では、いずれも70%を超えている。
- ・「4.授業で学んだ」と回答した方は、10代で29.1%、20代で25.7%であり、30代、40代では10%を割り、50代以上は0%である。
- ・「3.当事者の知人がいて、話を聞いた」と回答した方は、70代以外の全ての年代に存在した。学校での学びの経験の有無にかかわらず、当事者と出会い話を聞く機会のある人が一定数存在する。

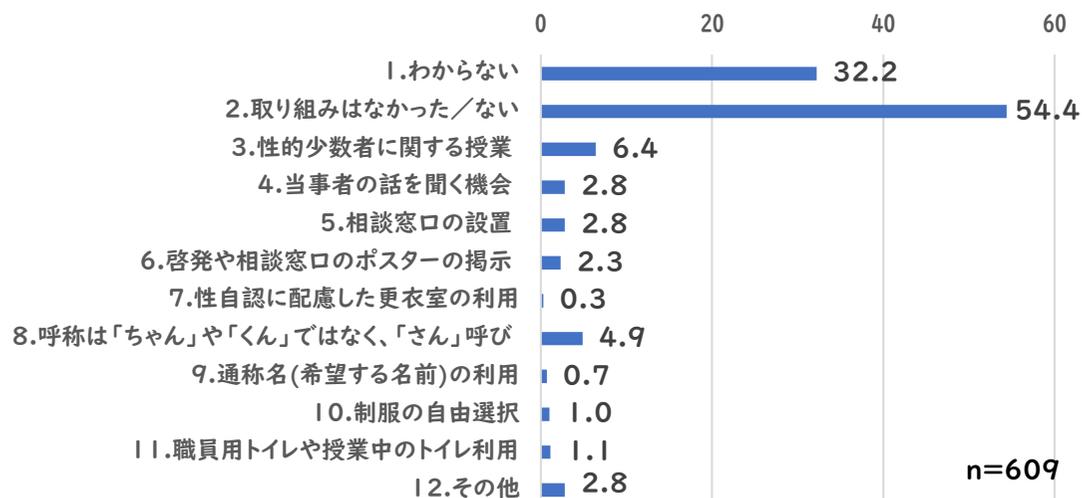
県内学校での性的少数者についての学びの経験								
【セクシュアリティ別】	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.学ばなかった	60	73.2	84	56.4	247	65.3	391	64.2
2.自ら調べた	45	54.9	68	45.6	64	16.9	177	29.1
3.当事者の知人がいて、話を聞いた	11	13.4	17	11.4	36	9.5	64	10.5
4.授業で学んだ	6	7.3	30	20.1	55	14.6	91	14.9
5.講演会などで当事者の話を聞いた	3	3.7	12	8.1	28	7.4	43	7.1
6.校内にポスターが貼ってあった	4	4.9	5	3.4	16	4.2	25	4.1
7.ホームルームなどで話題に出た	0	0.0	2	1.3	3	0.8	5	0.8
8.その他	3	3.7	10	6.7	15	4.0	28	4.6
合計	132	-	228	-	464	-	824	-
n	82		149		378		609	



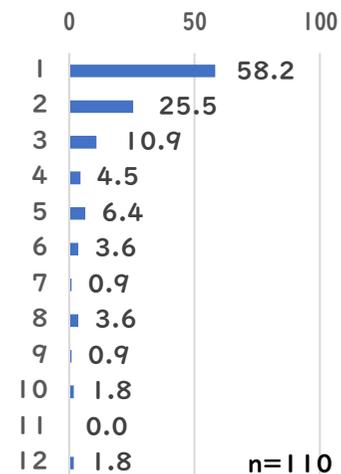
■問14.県内の学校に通われた又は通われている方にお尋ねします。県内の学校で性的少数者に関する取り組みはありましたか。【複数回答可】

県内の学校における性的少数者に関する取り組み状況																
	10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		合計	
	回答数	割合														
1.わからない	64	58.2	74	36.6	27	24.3	17	18.9	10	12.8	3	20.0	1	33.3	196	32.2
2.取り組みはなかった/ ない	28	25.5	83	41.1	79	71.2	67	74.4	63	80.8	10	66.7	1	33.3	331	54.4
3.性的少数者に関する授業	12	10.9	22	10.9	3	2.7	0	0.0	1	1.3	1	6.7	0	0.0	39	6.4
4.当事者の話を聞く機会	5	4.5	8	4.0	1	0.9	0	0.0	3	3.8	0	0.0	0	0.0	17	2.8
5.相談窓口の設置	7	6.4	9	4.5	0	0.0	0	0.0	1	1.3	0	0.0	0	0.0	17	2.8
6.啓発や相談窓口のポスターの掲示	4	3.6	7	3.5	2	1.8	0	0.0	1	1.3	0	0.0	0	0.0	14	2.3
7.性自認に配慮した更衣室の利用	1	0.9	0	0.0	0	0.0	1	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.3
8.呼称は「ちゃん」や「くん」ではなく、「さん」呼び	4	3.6	14	6.9	2	1.8	3	3.3	5	6.4	2	13.3	0	0.0	30	4.9
9.通称名(希望する名前)の利用	1	0.9	2	1.0	0	0.0	0	0.0	1	1.3	0	0.0	0	0.0	4	0.7
10.制服の自由選択	2	1.8	2	1.0	0	0.0	1	1.1	1	1.3	0	0.0	0	0.0	6	1.0
11.職員用トイレや授業中のトイレ利用	0	0.0	4	2.0	0	0.0	1	1.1	2	2.6	0	0.0	0	0.0	7	1.1
12.その他	2	1.8	1	0.5	5	4.5	3	3.3	3	3.8	1	6.7	2	66.7	17	2.8
合計	130	-	226	-	119	-	93	-	91	-	17	-	4	-	680	-
n	110		202		111		90		78		15		3		609	

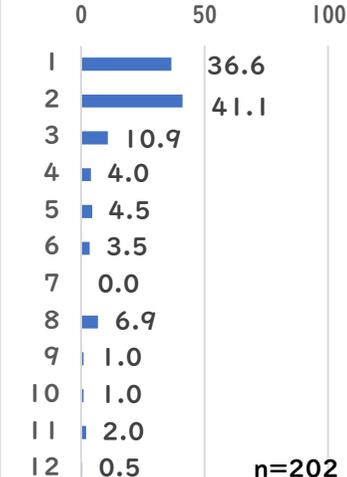
県内の学校における性的少数者に関する取り組み状況(全体)



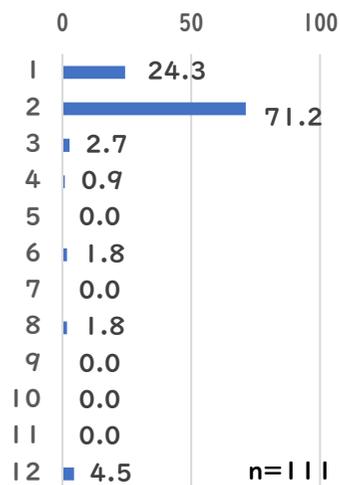
10代



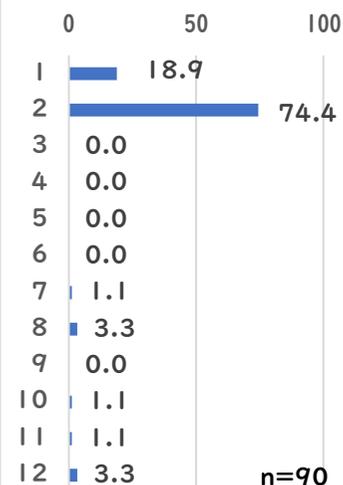
20代



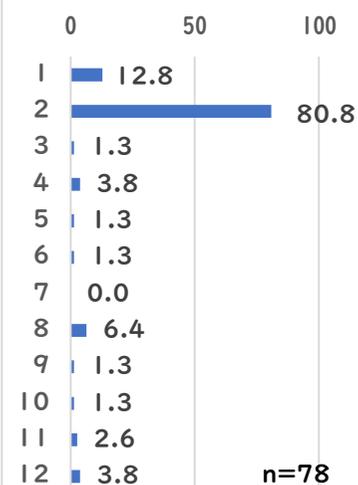
30代



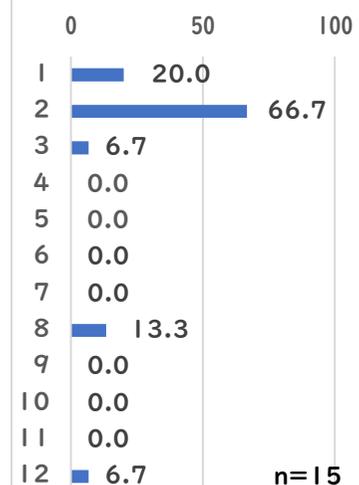
40代



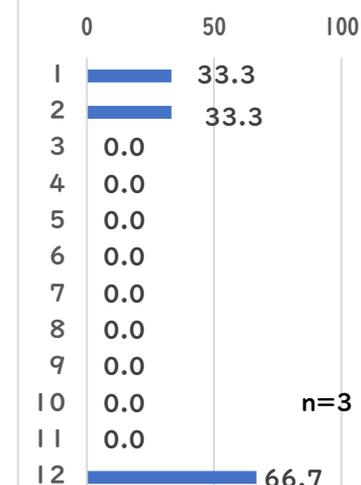
50代



60代



70代

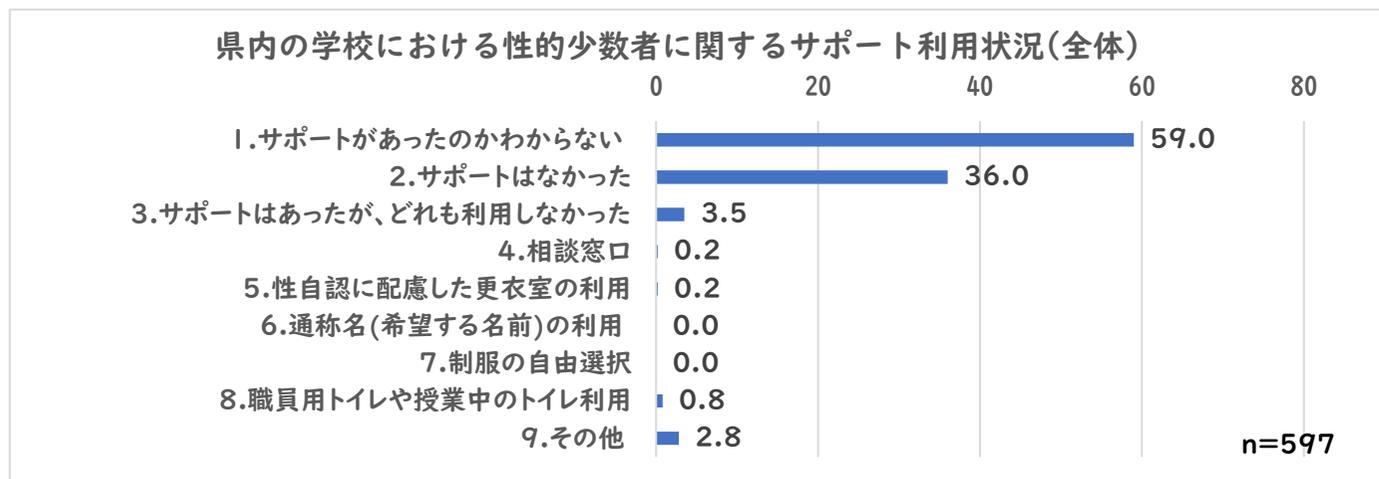
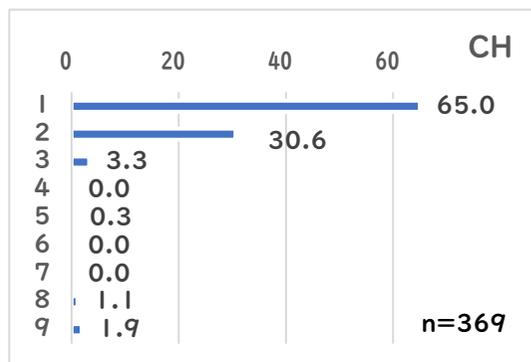
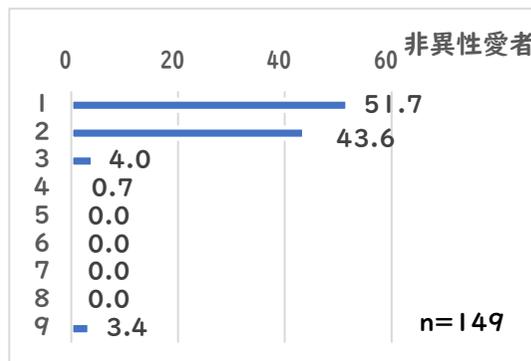
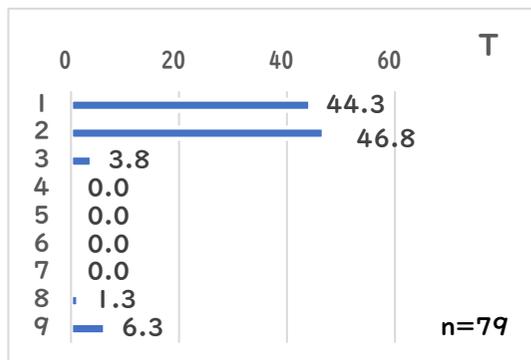


- ・全体では、「2.取り組みはなかった/ない」(54.4%)、「1.わからない」(32.2%)の回答で殆どを占めている。
- ・取り組みの中で多かったのは、全体で、「3.性的少数者に関する授業」(6.4%)、「8.呼称は「ちゃん」や「くん」ではなく、「さん」呼び」(4.9%)だが、いずれも低い割合となっている。

■問 15. 県内の学校に通われた又は通われている方にお尋ねします。県内の学校で性的少数者に関するサポートを利用したことはありますか。【複数回答可】

県内の学校における性的少数者に関するサポート利用状況								
	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.サポートがあったのかわからない	35	44.3	77	51.7	240	65.0	352	59.0
2.サポートはなかった	37	46.8	65	43.6	113	30.6	215	36.0
3.サポートはあったが、どれも利用しなかった	3	3.8	6	4.0	12	3.3	21	3.5
4.相談窓口	0	0.0	1	0.7	0	0.0	1	0.2
5.性自認に配慮した更衣室の利用	0	0.0	0	0.0	1	0.3	1	0.2
6.通称名(希望する名前)の利用	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7.制服の自由選択	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8.職員用トイレや授業中のトイレ利用	1	1.3	0	0.0	4	1.1	5	0.8
9.その他	5	6.3	5	3.4	7	1.9	17	2.8
合計	81	-	154	-	377	-	612	-
n	79		149		369		597	

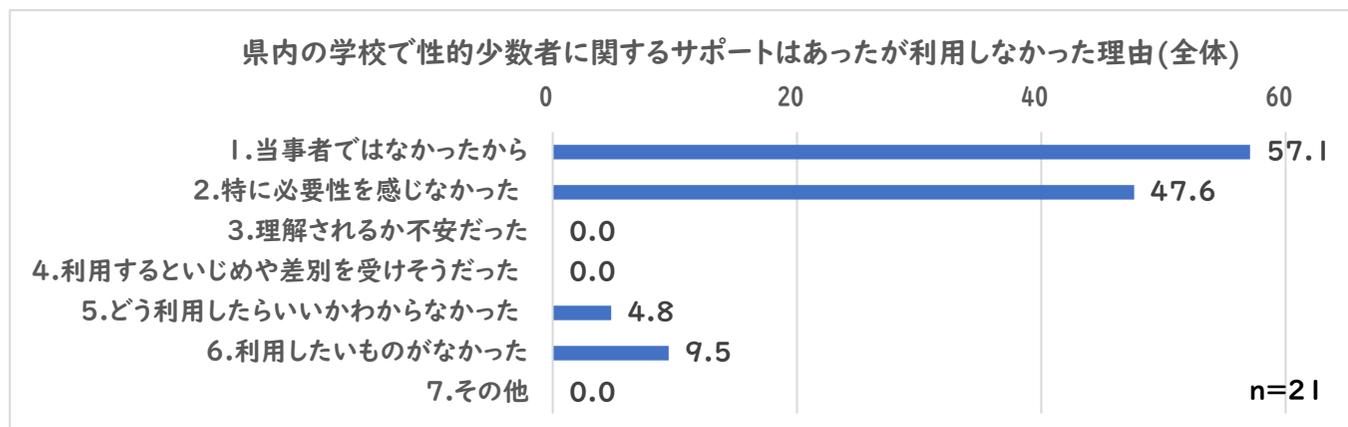
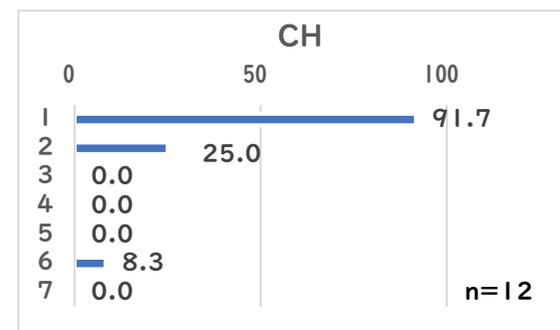
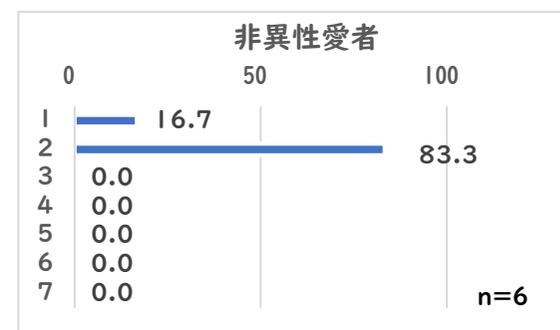
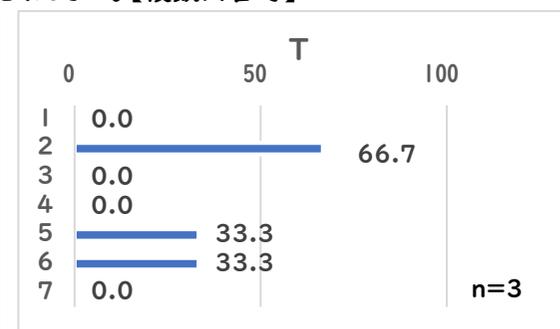
「その他」の主な記述内容：制服の自由選択はあったが、女子のみ(スラックス可)



・全体では、「1.サポートがあったのかわからない」(59.0%)、「2.サポートはなかった」(36.0%)の回答が殆どであり、「3.サポートはあったが、どれも利用しなかった」の回答及びサポートを利用した(選択肢 4~8)という回答は、いずれも5%未満である。

■問16.問15で「3.サポートはあったが、どれも利用しなかった」と回答された方へお尋ねします。その理由をお答えください。【複数回答可】

県内の学校で性的少数者に関するサポートはあったが利用しなかった理由									
	T		非異性愛者		CH		合計		
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
1.当事者ではなかったから	0	0.0	1	16.7	11	91.7	12	57.1	
2.特に必要性を感じなかった	2	66.7	5	83.3	3	25.0	10	47.6	
3.理解されるか不安だった	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
4.利用するといじめや差別を受けそうだった	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
5.どう利用したらいいかわからなかった	1	33.3	0	0.0	0	0.0	1	4.8	
6.利用したいものがなかった	1	33.3	0	0.0	1	8.3	2	9.5	
7.その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
合計	4	-	6	-	15	-	25	-	
n	3		6		12		21		

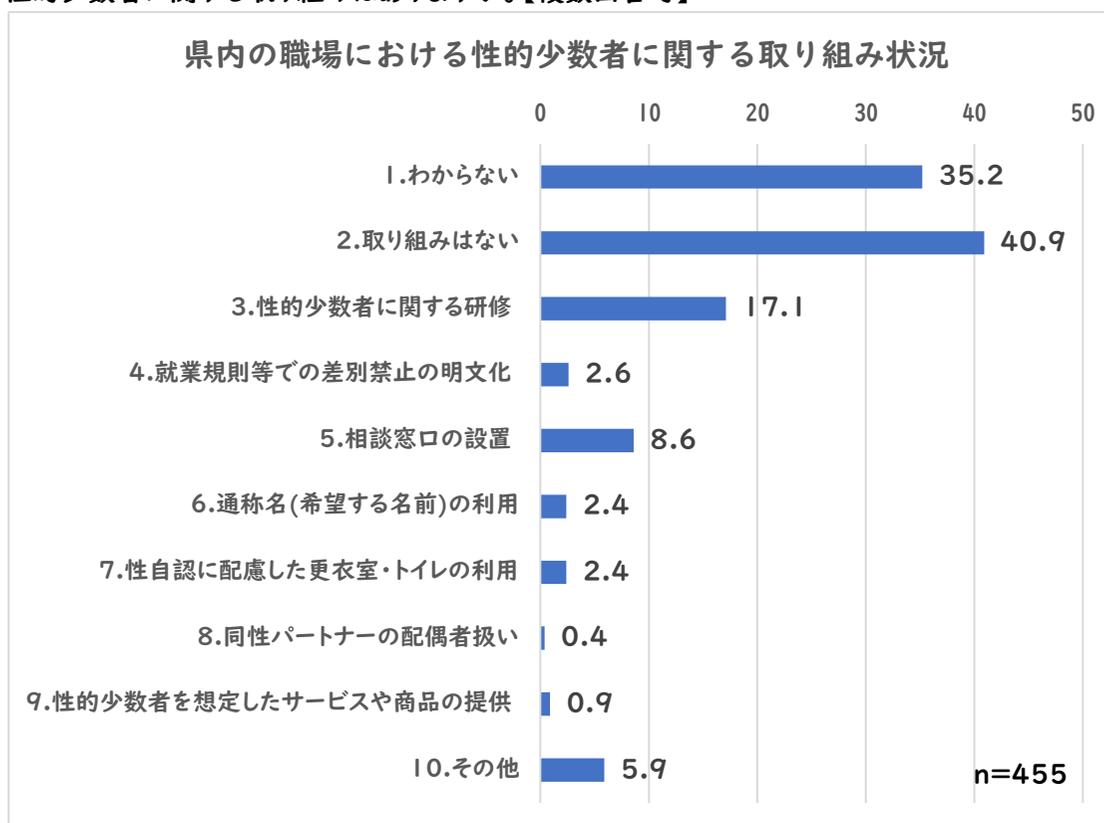


- ・非異性愛者の中に、「1.当事者ではなかったから」との回答があるが、これは問15におけるサポートがT向けであると認識されている、または本調査における分類と本人の認識とのずれが生じていることによるものと考えられる。
- ・当事者(T、非異性愛者)が利用しなかった理由として、「2.特に必要性を感じなかった」といった回答の割合が最も高くなっているが、回答数が非常に少ない状況での結果であることに留意する必要がある。

■問 17.現在の職場が県内の方にお尋ねします。あなたの職場では、性的少数者に関する取り組みはありますか。【複数回答可】

県内の職場における性的少数者に関する取り組み状況	合計	
	回答数	割合
1.わからない	160	35.2
2.取り組みはない	186	40.9
3.性的少数者に関する研修	78	17.1
4.就業規則等での差別禁止の明文化	12	2.6
5.相談窓口の設置	39	8.6
6.通称名(希望する名前)の利用	11	2.4
7.性自認に配慮した更衣室・トイレの利用	11	2.4
8.同性パートナーの配偶者扱い	2	0.4
9.性的少数者を想定したサービスや商品の提供	4	0.9
10.その他	27	5.9
合計	530	-
n	455	

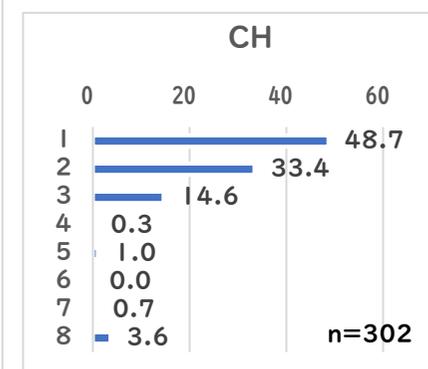
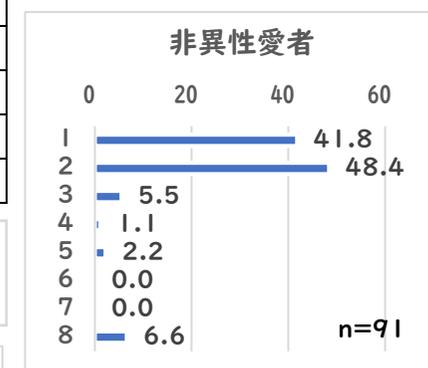
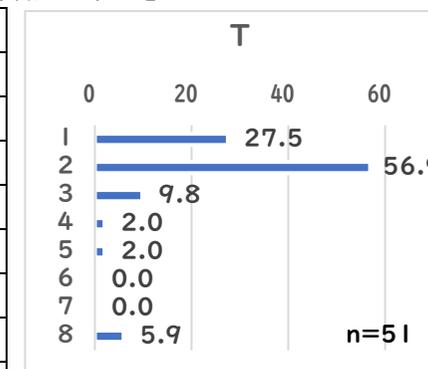
「その他」の主な記述内容：ガイドラインの作成 / LGBTを支援する団体への支援 / 性自認に応じた対応 / 今後必要があれば対応したい / 個人事業主のため実施していない



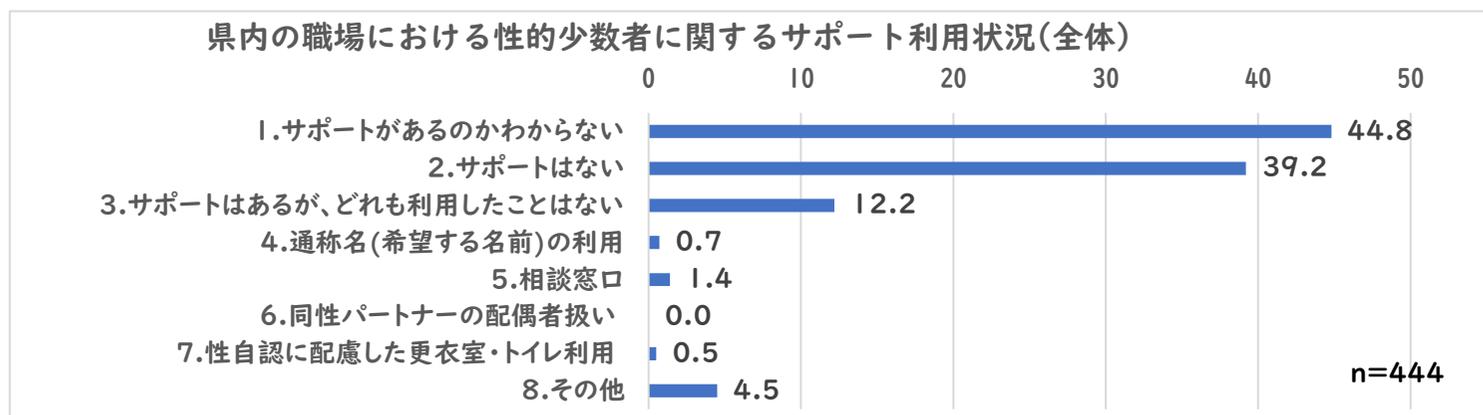
- ・「2.取り組みはない」(40.9%)、「1.わからない」(35.2%)が殆どであるが、取り組みが行われている職場では、「3.性的少数者に関する研修」(17.1%)、「5.相談窓口の設置」(8.6%)の順で高い。
- ・現在取り組んではいないものの、「10.その他」の記述内容に、今後取り組みを検討するといった回答もあった。

■問18.現在の職場が県内の方にお尋ねします。あなたは職場で、性的少数者に関するサポートを利用したことはありますか。【複数回答可】

県内の職場における性的少数者に関するサポート利用状況								
	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1. サポートがあるのかわからない	14	27.5	38	41.8	147	48.7	199	44.8
2. サポートはない	29	56.9	44	48.4	101	33.4	174	39.2
3. サポートはあるが、どれも利用したことはない	5	9.8	5	5.5	44	14.6	54	12.2
4. 通称名(希望する名前)の利用	1	2.0	1	1.1	1	0.3	3	0.7
5. 相談窓口	1	2.0	2	2.2	3	1.0	6	1.4
6. 同性パートナーの配偶者扱い	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7. 性自認に配慮した更衣室・トイレ利用	0	0.0	0	0.0	2	0.7	2	0.5
8. その他	3	5.9	6	6.6	11	3.6	20	4.5
合計	53	-	96	-	309	-	458	-
n	51		91		302		444	



「その他」の主な記述内容： 自営のため、研修や講演に参加 / サポートはないが当事者からアドバイスを受けた経験がある / 制度はないが個別対応は実施する環境

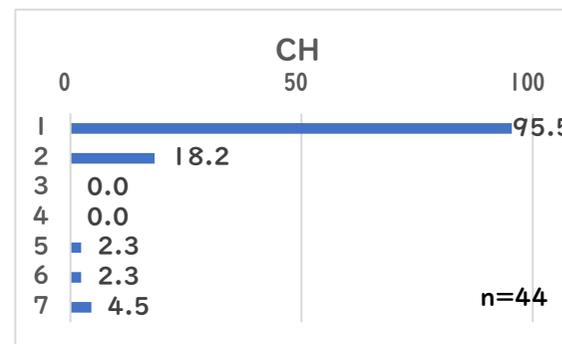
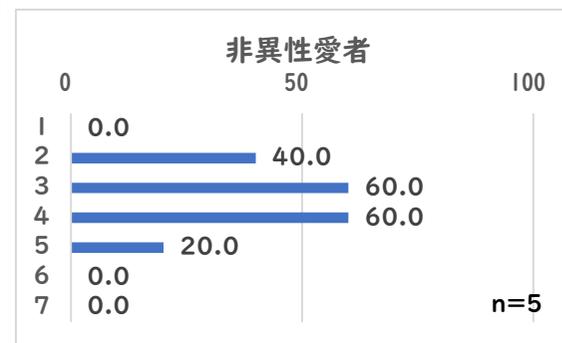
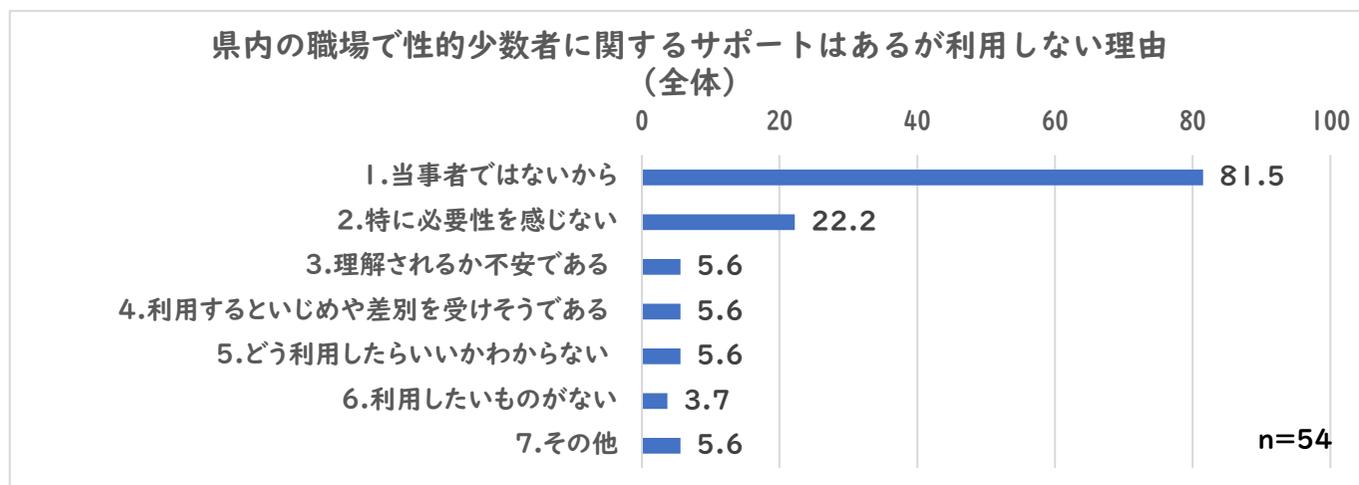
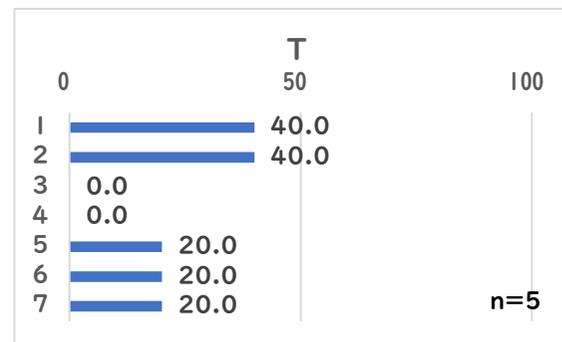


・全体では、「1.サポートがあるのかわからない」(44.8%)、「2.サポートはない」(39.2%)の順で高く、「3.サポートはあるが、どれも利用したことはない」は12.2%で、また、上記4~7のサポートを利用したとの回答は殆どない状況である。

■問19.問18で「3.サポートはあるが、どれも利用したことはない」と回答された方へお尋ねします。その理由を教えてください。【複数回答可】

県内の職場で性的少数者に関するサポートはあるが利用しない理由								
	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.当事者ではないから	2	40.0	0	0.0	42	95.5	44	81.5
2.特に必要性を感じない	2	40.0	2	40.0	8	18.2	12	22.2
3.理解されるか不安である	0	0.0	3	60.0	0	0.0	3	5.6
4.利用するといじめや差別を受けそうである	0	0.0	3	60.0	0	0.0	3	5.6
5.どう利用したらいいかわからない	1	20.0	1	20.0	1	2.3	3	5.6
6.利用したいものがない	1	20.0	0	0.0	1	2.3	2	3.7
7.その他	1	20.0	0	0.0	2	4.5	3	5.6
合計	7	-	9	-	54	-	70	-
n	5		5		44		54	

「その他」の主な記述内容：顧客を対象とした取り組みで職員にはない / サポートというのは名ばかりで実態がない

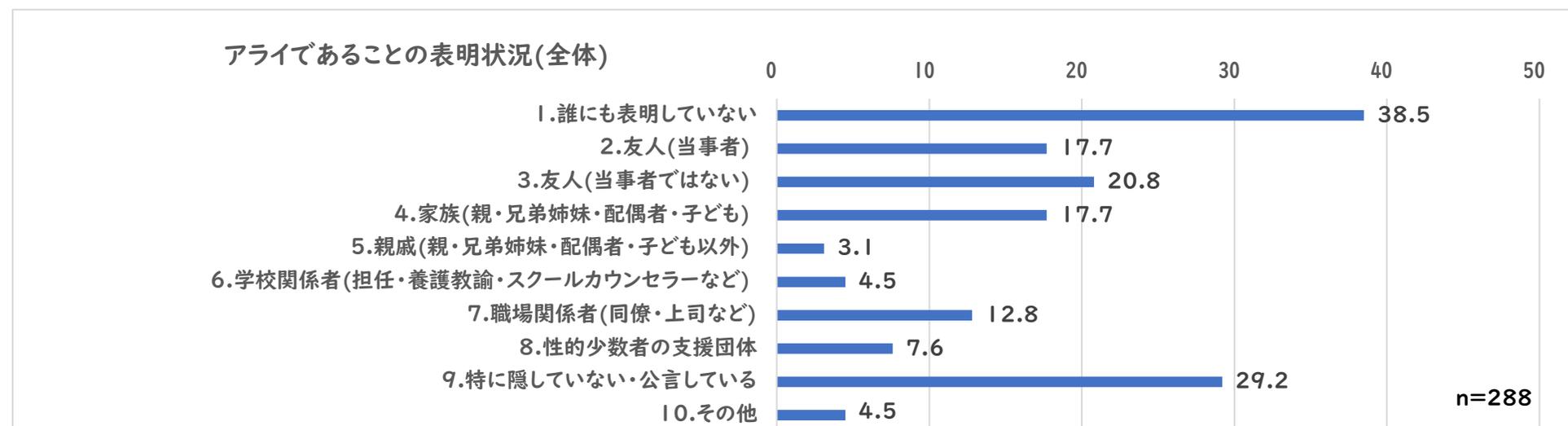


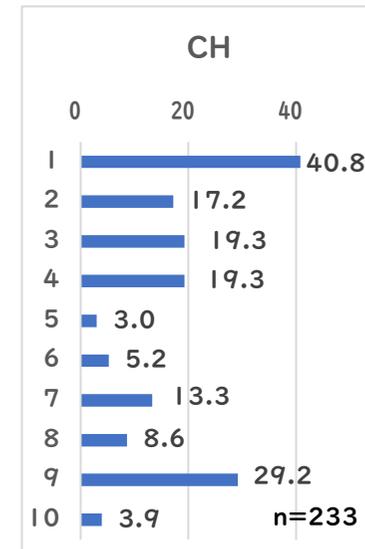
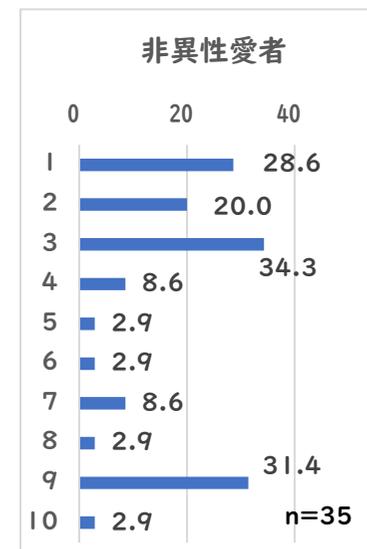
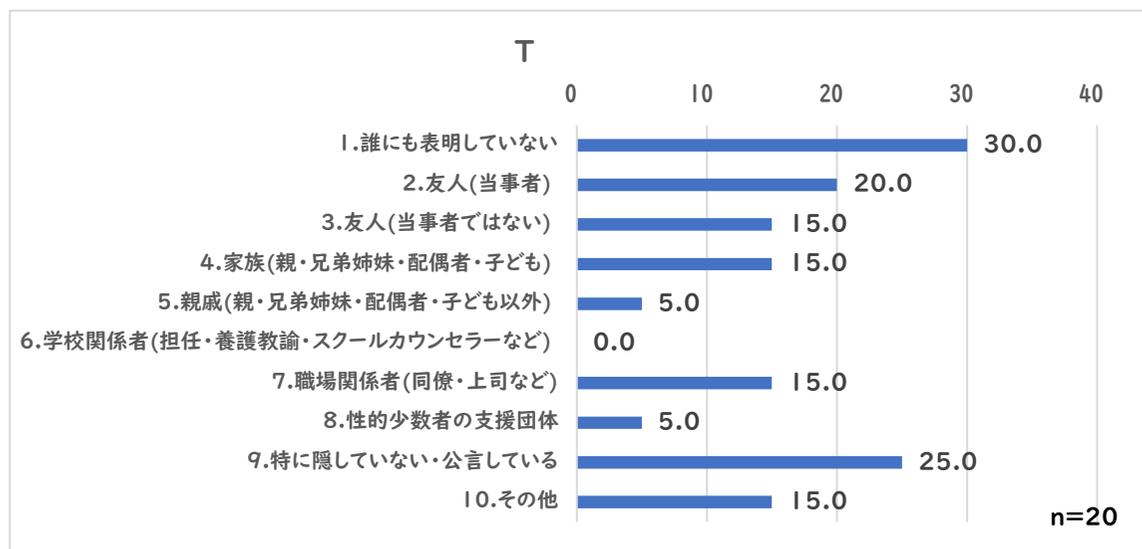
- ・回答者の8割以上がCHであり、その95.5%が「1.当事者ではないから」と回答している。
- ・Tの中に、「1.当事者ではないから」との回答があるが、これは、本調査における分類と本人の認識とのずれが生じている、または性別違和の程度の度合いによるものと考えられる。
- ・当事者(T、非異性愛者)が利用しなかったと理由として、「2.特に必要性を感じない」、「3.理解されるか不安である」、「4.利用するといじめや差別を受けそうである」といった回答の割合が高くなっているが、回答数が非常に少ない状況での結果であることに留意する必要がある。

■問 20. アライ(当事者ではないが支援の気持ちを持つ人)の方へお尋ねします。あなたは、自分自身の支援の気持ちを表明していますか。表明の範囲を教えてください。【複数回答可】

アライであることの表明状況								
	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.誰にも表明していない	6	30.0	10	28.6	95	40.8	111	38.5
2.友人(当事者)	4	20.0	7	20.0	40	17.2	51	17.7
3.友人(当事者ではない)	3	15.0	12	34.3	45	19.3	60	20.8
4.家族(親・兄弟姉妹・配偶者・子ども)	3	15.0	3	8.6	45	19.3	51	17.7
5.親戚(親・兄弟姉妹・配偶者・子ども以外)	1	5.0	1	2.9	7	3.0	9	3.1
6.学校関係者(担任・養護教諭・スクールカウンセラーなど)	0	0.0	1	2.9	12	5.2	13	4.5
7.職場関係者(同僚・上司など)	3	15.0	3	8.6	31	13.3	37	12.8
8.性的少数者の支援団体	1	5.0	1	2.9	20	8.6	22	7.6
9.特に隠していない・公言している	5	25.0	11	31.4	68	29.2	84	29.2
10.その他	3	15.0	1	2.9	9	3.9	13	4.5
合計	29	-	50	-	372	-	451	-
n	20		35		233		288	

その他の主な記述内容：インターネット上では公言している / 必要があれば協力するのが当たり前なので公言していない / 関連話題の時には肯定的な意見を示している



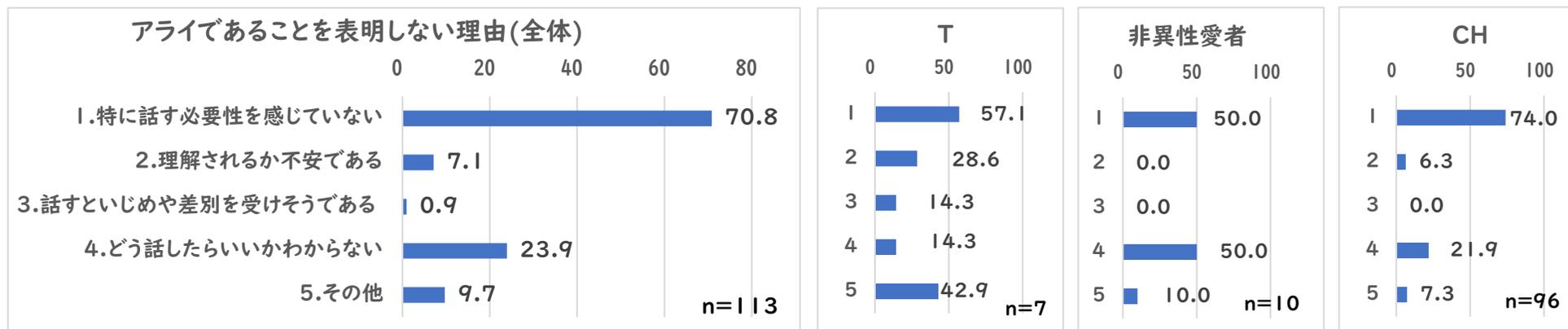


- ・アライへの質問に対し、当事者の方も回答されているが、これは、当事者であると認識されていない方や、当事者と認識していて他の当事者への支援の気持ちを持つ方が回答されていると考えられる。
- ・CHにおいては、「1. 誰にも表明していない」が40.8%と最も高く、次いで、「9. 特に隠していない・公言している」(29.2%)の順となっている。また、表明している方の相手は、家族や友人、職場関係者といった回答が多い。

■問 21.問 20 でアライであることを「1.誰にも表明していない」と回答された方へお尋ねします。その理由を教えてください。【複数回答可】

アライであることを表明しない理由									
	T		非異性愛者		CH		合計		
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
1.特に話す必要性を感じていない	4	57.1	5	50.0	71	74.0	80	70.8	
2.理解されるか不安である	2	28.6	0	0.0	6	6.3	8	7.1	
3.話すといじめや差別を受けそうである	1	14.3	0	0.0	0	0.0	1	0.9	
4.どう話したらいいかわからない	1	14.3	5	50.0	21	21.9	27	23.9	
5.その他	3	42.9	1	10.0	7	7.3	11	9.7	
無回答	1	14.3	0	0.0	0	0.0	1	0.9	
合計	12	-	11	-	105	-	128	-	
n	7		10		96		113		

「その他」の主な記述内容：行動を起こしたことがないから話す場がない / 当事者の方を「理解している」「支援している」というのは見下している感じがするから



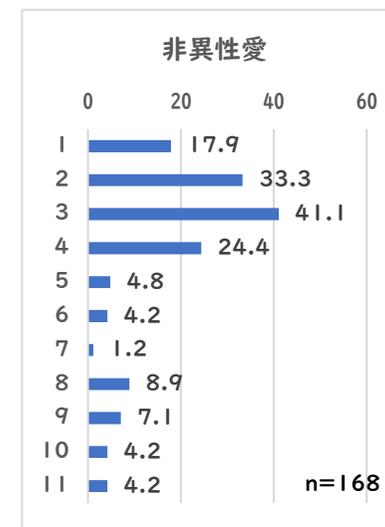
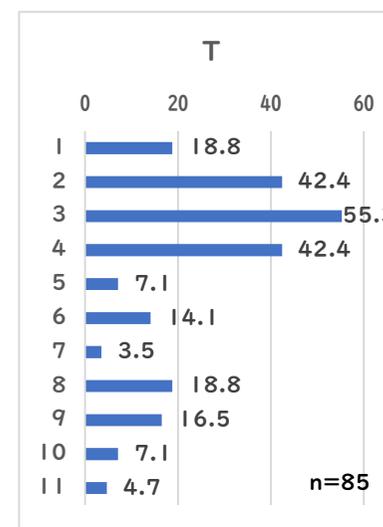
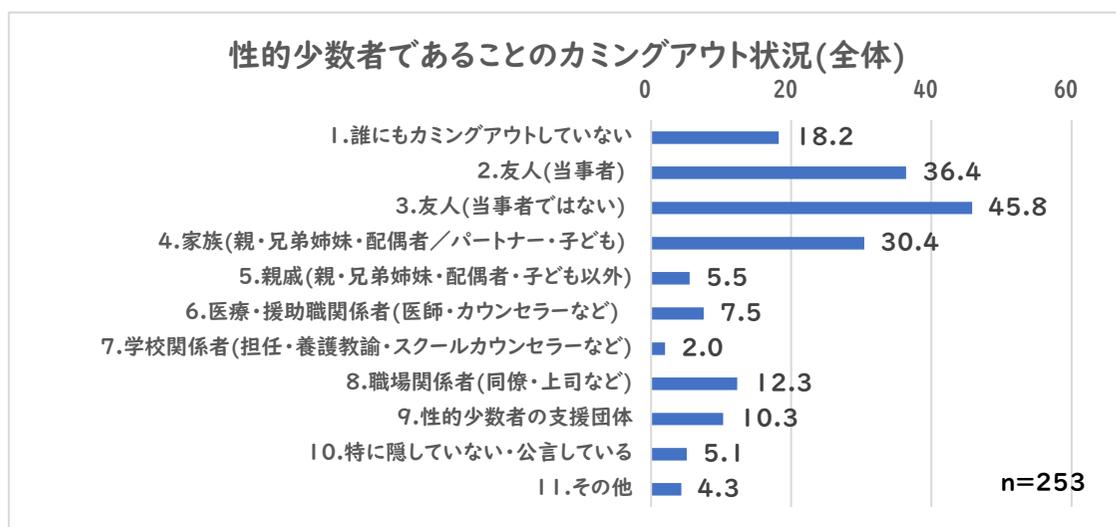
- ・アライへの質問に対し、当事者の方も回答されているが、これは、当事者であると認識されていない方や、当事者と認識していて他の当事者への支援の気持ちを持つ方が回答されていると考えられる。
- ・CHにおいては、「1.特に話す必要性を感じていない」の割合が74.0%と最も高く、次いで、大きな差はあるが、「4.どう話したらいいかわからない」(21.9%)の順となっている。

■問 22.当事者の方へお尋ねします。あなたは周囲に、自分自身が性的少数者であることをカミングアウトしていますか。カミングアウトの範囲を教えてください。
【複数回答可】

性的少数者であることのカミングアウト状況						
	T		非異性愛者		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.誰にもカミングアウトしていない	16	18.8	30	17.9	46	18.2
2.友人(当事者)	36	42.4	56	33.3	92	36.4
3.友人(当事者ではない)	47	55.3	69	41.1	116	45.8
4.家族(親・兄弟姉妹・配偶者／パートナー・子ども)	36	42.4	41	24.4	77	30.4
5.親戚(親・兄弟姉妹・配偶者・子ども以外)	6	7.1	8	4.8	14	5.5
6.医療・援助職関係者(医師・カウンセラーなど)	12	14.1	7	4.2	19	7.5
7.学校関係者(担任・養護教諭・スクールカウンセラーなど)	3	3.5	2	1.2	5	2.0
8.職場関係者(同僚・上司など)	16	18.8	15	8.9	31	12.3
9.性的少数者の支援団体	14	16.5	12	7.1	26	10.3
10.特に隠していない・公言している	6	7.1	7	4.2	13	5.1
11.その他	4	4.7	7	4.2	11	4.3
無回答	12	14.1	42	25.0	54	21.3
合計	208	-	296	-	504	-
n	85		168		253	

「その他」の主な記述内容：隠してはいるが明言もしていない / 戸籍変更済みのため、昔を知らない人にはカミングアウトしていない / SNSが心のよりどころ

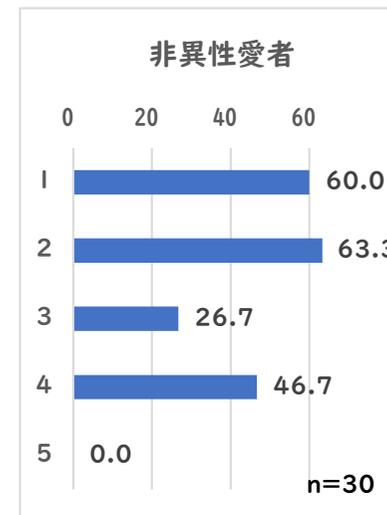
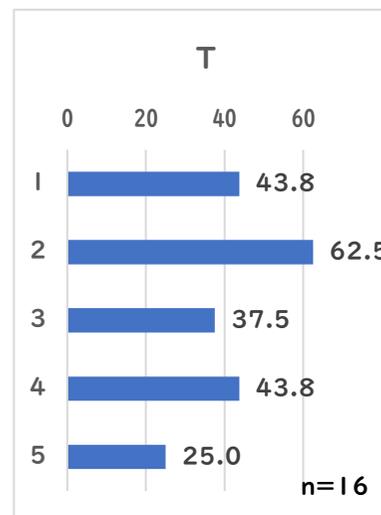
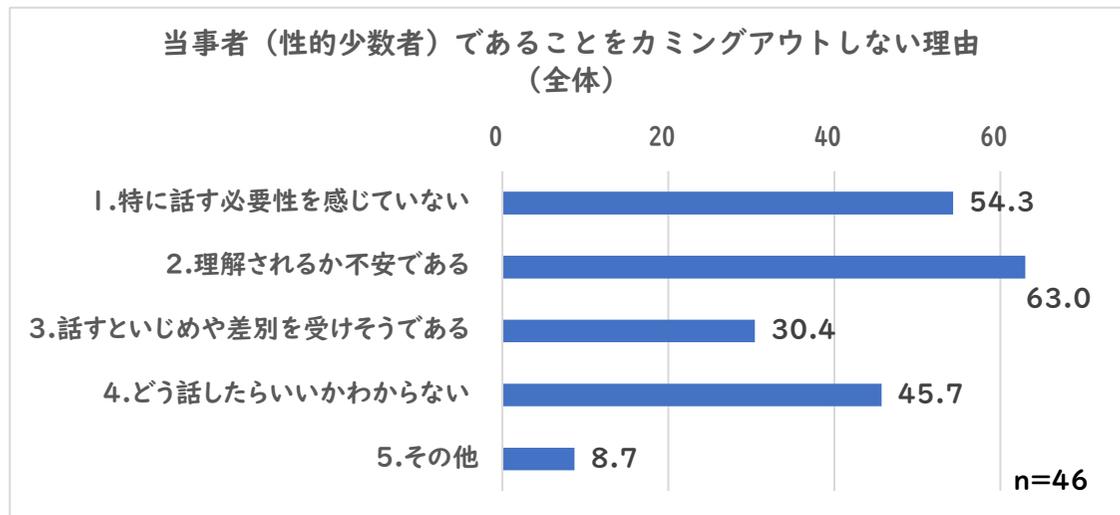
- ・全体では、「1.誰にもカミングアウトしていない」と回答した方の割合は18.2%と低いように見えるが、これは、性的少数者支援団体の各種活動への参加者やその知人の方などを中心にアンケート実施の周知を行ったため、カミングアウトされている回答者が多くなっていることが要因であると考えられる。
- ・カミングアウトしている当事者は、相手が殆ど友人や家族であり範囲が狭く、「9.特に隠していない・公言している」としている当事者は、5.1%と1割に満たない。
- ・「その他」においては、インターネット上でカミングアウトしている方もいた。



■問 23.問 22 で当事者であることを「1.誰にもカミングアウトしていない」と回答された方へお尋ねします。その理由を教えてください。【複数回答可】

当事者（性的少数者）であることをカミングアウトしない理由						
	T		非異性愛者		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.特に話す必要性を感じていない	7	43.8	18	60.0	25	54.3
2.理解されるか不安である	10	62.5	19	63.3	29	63.0
3.話すといじめや差別を受けそうである	6	37.5	8	26.7	14	30.4
4.どう話したらいいかわからない	7	43.8	14	46.7	21	45.7
5.その他	4	25.0	0	0.0	4	8.7
無回答	0	0.0	4	13.3	4	8.7
合計	34	-	63	-	97	-
n	16		30		46	

「その他」の主な記述内容：自分は深刻にとらえていないので、過度な配慮は不要だから / 偏見を受けそうで怖くて言えない / 地元でカミングアウトしたらうわさが広がって生きていけないと思うから



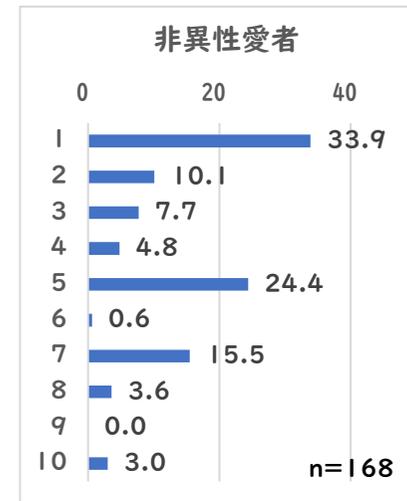
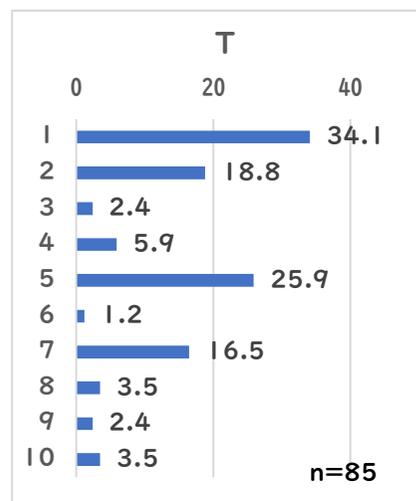
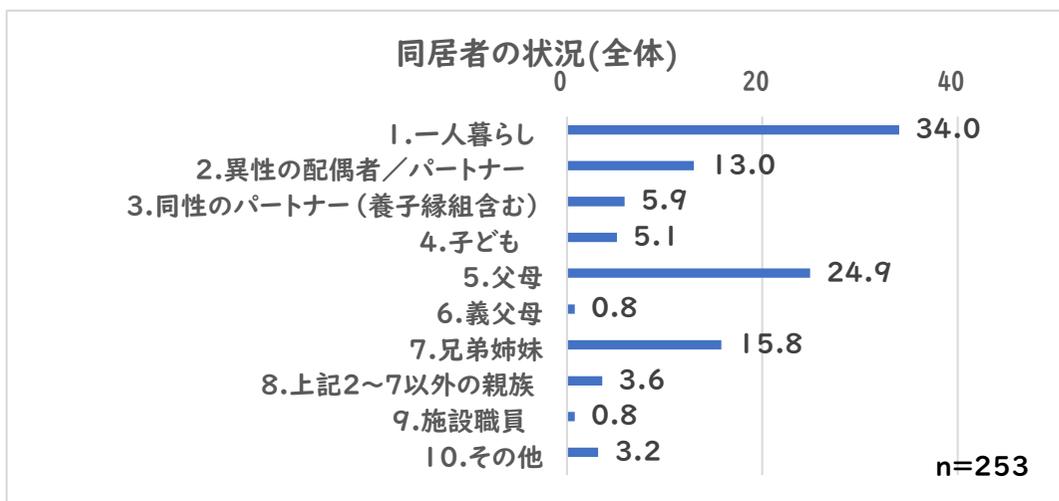
・全体では、「2.理解されるか不安である」の割合が 63.0%と最も高いが、「1.特に話す必要性を感じていない」(54.3%)が2番目に高く、次いで「4.どう話したらいいかわからない」(45.7%)の順となっている。

■問 24.当事者の方へお尋ねします。現在、あなたは誰と暮らしていますか。【複数回答可】

同居者の状況						
	T		非異性愛者		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.一人暮らし	29	34.1	57	33.9	86	34.0
2.異性の配偶者／パートナー	16	18.8	17	10.1	33	13.0
3.同性のパートナー（養子縁組含む）	2	2.4	13	7.7	15	5.9
4.子ども	5	5.9	8	4.8	13	5.1
5.父母	22	25.9	41	24.4	63	24.9
6.義父母	1	1.2	1	0.6	2	0.8
7.兄弟姉妹	14	16.5	26	15.5	40	15.8
8.上記2～7以外の親族	3	3.5	6	3.6	9	3.6
9.施設職員	2	2.4	0	0.0	2	0.8
10.その他	3	3.5	5	3.0	8	3.2
無回答	11	12.9	37	22.0	48	19.0
合計	108	-	211	-	319	-
n	85		168		253	

「その他」の主な記述内容： 同性の同居人 / パートナーではない異性

- ・T、非異性愛者とも、「1.一人暮らし」が最も多く、同居の場合は、「5.父母」や「7.兄弟姉妹」との同居が多い。
- ・「3.同性パートナー（養子縁組含む）」と同居していると回答した人の中には、「4.子ども」とも同居されている方が3名おられた。



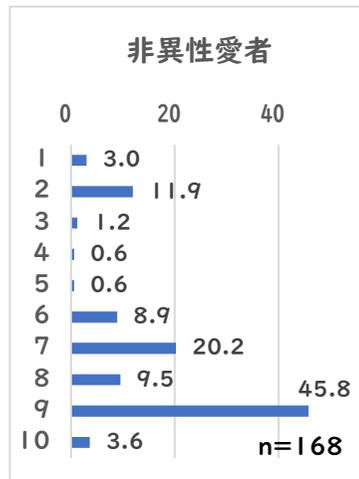
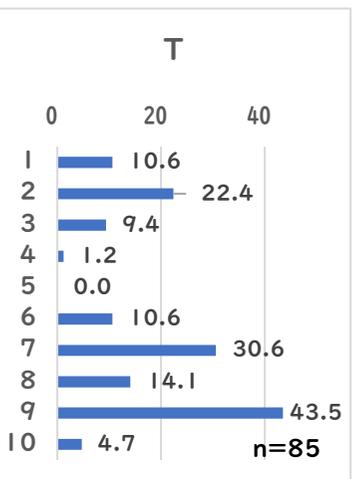
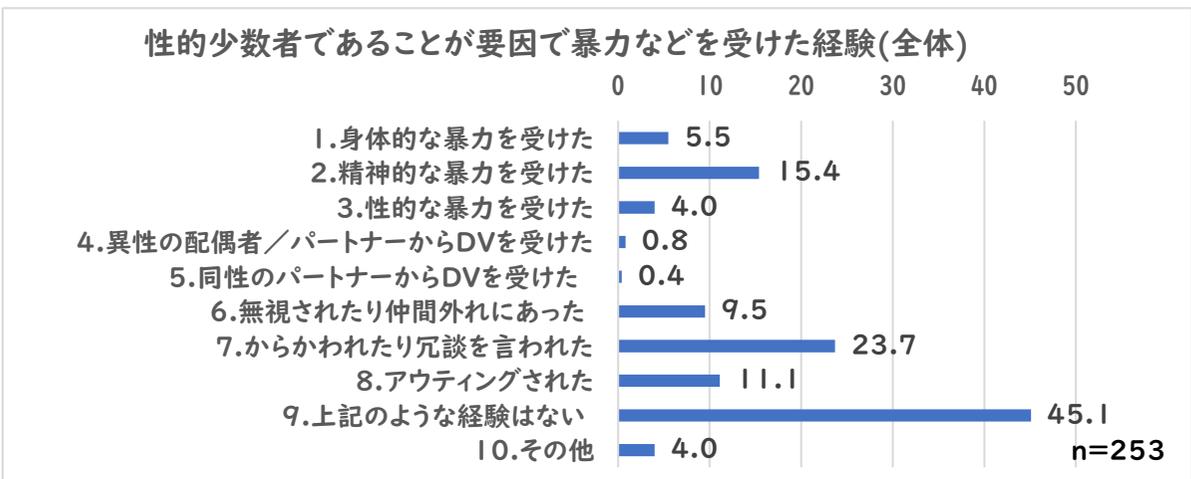
■問 25.当事者の方へお尋ねします。性的少数者であることが要因となった下記の経験はありますか。【複数回答可】

[補足] DV(ドメスティック・バイオレンス):配偶者や恋人から受ける精神的、身体的なものなどの暴力 / アウティング:本人の許可なく、性的少数者であることを他人に暴露されること

	T		非異性愛者		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.身体的な暴力を受けた	9	10.6	5	3.0	14	5.5
2.精神的な暴力を受けた	19	22.4	20	11.9	39	15.4
3.性的な暴力を受けた	8	9.4	2	1.2	10	4.0
4.異性の配偶者／パートナーからDVを受けた	1	1.2	1	0.6	2	0.8
5.同性のパートナーからDVを受けた	0	0.0	1	0.6	1	0.4
6.無視されたり仲間外れにあった	9	10.6	15	8.9	24	9.5
7.からかわれたり冗談を言われた	26	30.6	34	20.2	60	23.7
8.アウティングされた	12	14.1	16	9.5	28	11.1
9.上記のような経験はない	37	43.5	77	45.8	114	45.1
10.その他	4	4.7	6	3.6	10	4.0
無回答	12	14.1	42	25.0	54	21.3
合計	137	-	219	-	356	-
n	85		168		253	

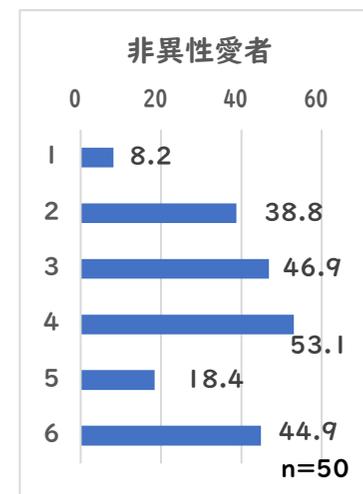
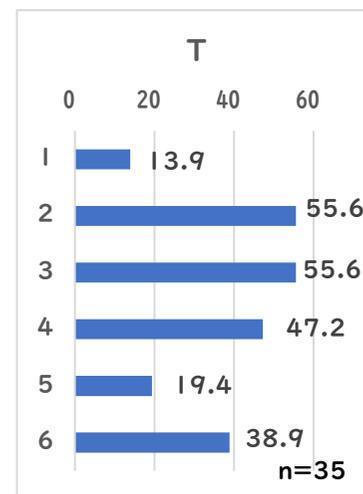
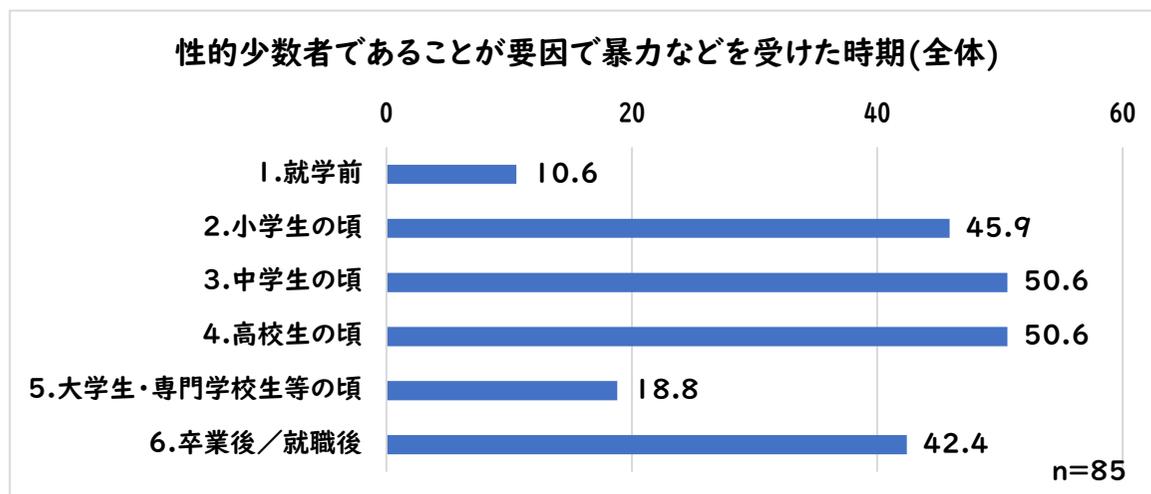
「その他」の主な記述内容:学校をやめた / 就職活動時にハラスメントを受けた / 性的少数者であることを否定された / 直接被害はないが周囲で侮蔑的な冗談を見聞きする

・「9.上記のような経験はない」以外のいずれかを回答された方の実人数は、Tが85人のうち36人(42.4%)、非異性愛者が168人のうち49人(29.2%)であった。
 ・暴力などの被害を受けた経験は、T、非異性愛者とも、「7.からかわれたり冗談を言われた」が最も多く、次いで「2.精神的な暴力を受けた」、「8.アウティングされた」の順となっている。



■問 26. 問 25 で 9 番以外を回答された方にお尋ねします。その経験はいつ頃ありましたか。【複数回答可】

性的少数者であることが要因で暴力などを受けた時期						
	T		非異性愛者		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.就学前	5	13.9	4	8.2	9	10.6
2.小学生の頃	20	55.6	19	38.8	39	45.9
3.中学生の頃	20	55.6	23	46.9	43	50.6
4.高校生の頃	17	47.2	26	53.1	43	50.6
5.大学生・専門学校生等の頃	7	19.4	9	18.4	16	18.8
6.卒業後／就職後	14	38.9	22	44.9	36	42.4
無回答	1	2.8	0	0.0	1	1.2
合計	84	-	103	-	187	-
n	36		49		85	



・暴力などの被害を受けた経験はどの時期にもあるが、特に小・中学生、高校生の頃が多く、卒業・就職後においても多い。
また、小学校就学前に既に何らかの被害を受けた当事者の割合が1割を超えている。

■問 27.問 25 で 9 番以外を回答された方にお尋ねします。その経験は誰から受けましたか。【複数回答可】

性的少数者であることが要因で暴力などを受けた相手						
	T		非異性愛者		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.学校の同級生・先輩・後輩など	22	61.1	32	65.3	54	63.5
2.学校関係者	8	22.2	11	22.4	19	22.4
3.職場関係者	11	30.6	16	32.7	27	31.8
4.医療・福祉関係者	2	5.6	1	2.0	3	3.5
5.異性の配偶者／パートナー	1	2.8	2	4.1	3	3.5
6.同性のパートナー(養子縁組含む)	0	0.0	2	4.1	2	2.4
7.父母	10	27.8	13	26.5	23	27.1
8.兄弟姉妹	3	8.3	2	4.1	5	5.9
9.配偶者／パートナーの親族	0	0.0	2	4.1	2	2.4
10.上記5～9以外の親族	2	5.6	2	4.1	4	4.7
11.近所の人	4	11.1	1	2.0	5	5.9
12.その他	3	8.3	4	8.2	7	8.2
無回答	0	0.0	1	2.0	1	1.2
合計	66	-	89	-	155	-
n	36		49		85	

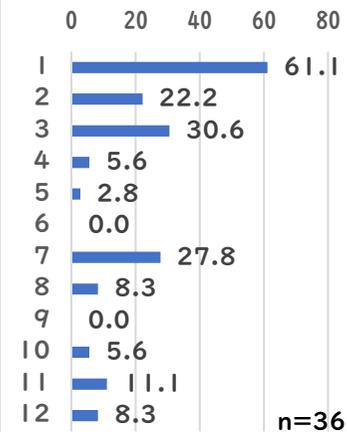
「その他」の主な記述内容：客 / 親の職場の人 / 元恋人

・暴力などの被害を受けた相手は、T、非異性愛者とも、「1.学校の同級生・先輩・後輩など」が最も多く、次いで「3.職場関係者」、「7.父母」、「2.学校関係者」の順となっている。

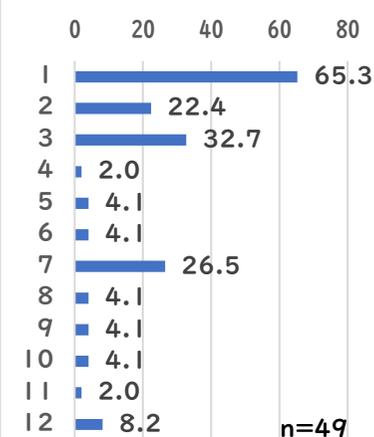
性的少数者であることが要因で暴力などを受けた相手(全体)



T



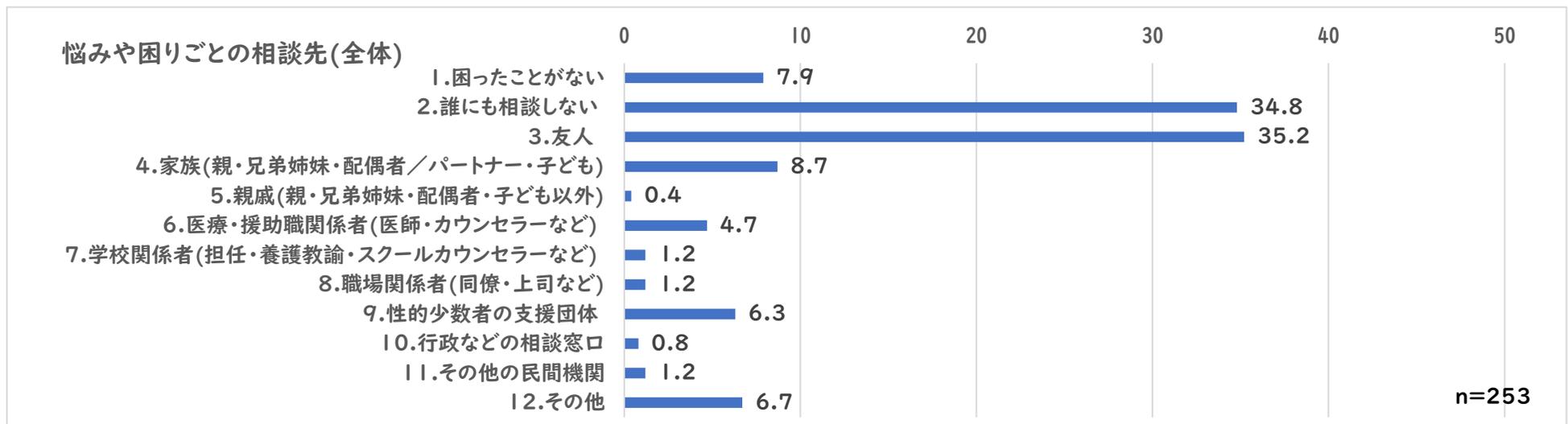
非異性愛者

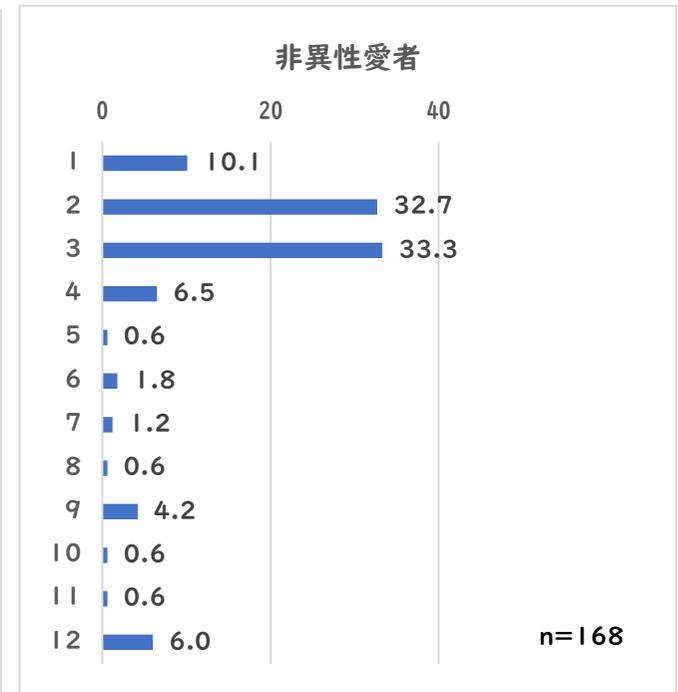
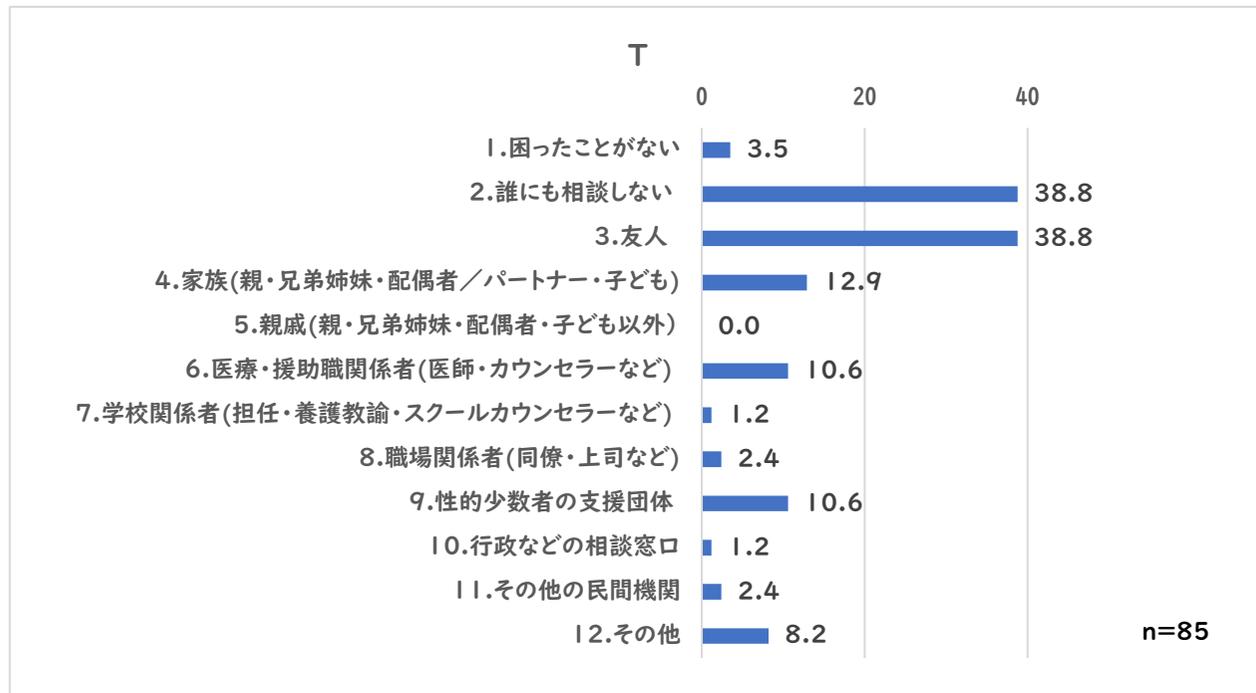


■問 28.当事者の方へお尋ねします。性的少数者として悩んだ時や困った時に、どこ(誰)に相談していますか。【複数回答可】

悩みや困りごとの相談先						
	T		非異性愛者		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.困ったことがない	3	3.5	17	10.1	20	7.9
2.誰にも相談しない	33	38.8	55	32.7	88	34.8
3.友人	33	38.8	56	33.3	89	35.2
4.家族(親・兄弟姉妹・配偶者／パートナー・子ども)	11	12.9	11	6.5	22	8.7
5.親戚(親・兄弟姉妹・配偶者・子ども以外)	0	0.0	1	0.6	1	0.4
6.医療・援助職関係者(医師・カウンセラーなど)	9	10.6	3	1.8	12	4.7
7.学校関係者(担任・養護教諭・スクールカウンセラーなど)	1	1.2	2	1.2	3	1.2
8.職場関係者(同僚・上司など)	2	2.4	1	0.6	3	1.2
9.性的少数者の支援団体	9	10.6	7	4.2	16	6.3
10.行政などの相談窓口	1	1.2	1	0.6	2	0.8
11.その他の民間機関	2	2.4	1	0.6	3	1.2
12.その他	7	8.2	10	6.0	17	6.7
無回答	13	15.3	41	24.4	54	21.3
合計	124	-	206	-	330	-
n	85		168		253	

「その他」の主な記述内容:SNS / 長崎で集まりどころ(バーやイベント等)がなく我慢することが多い / 家庭教師





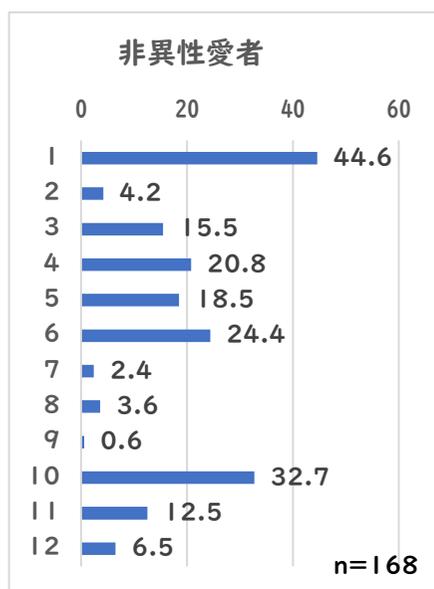
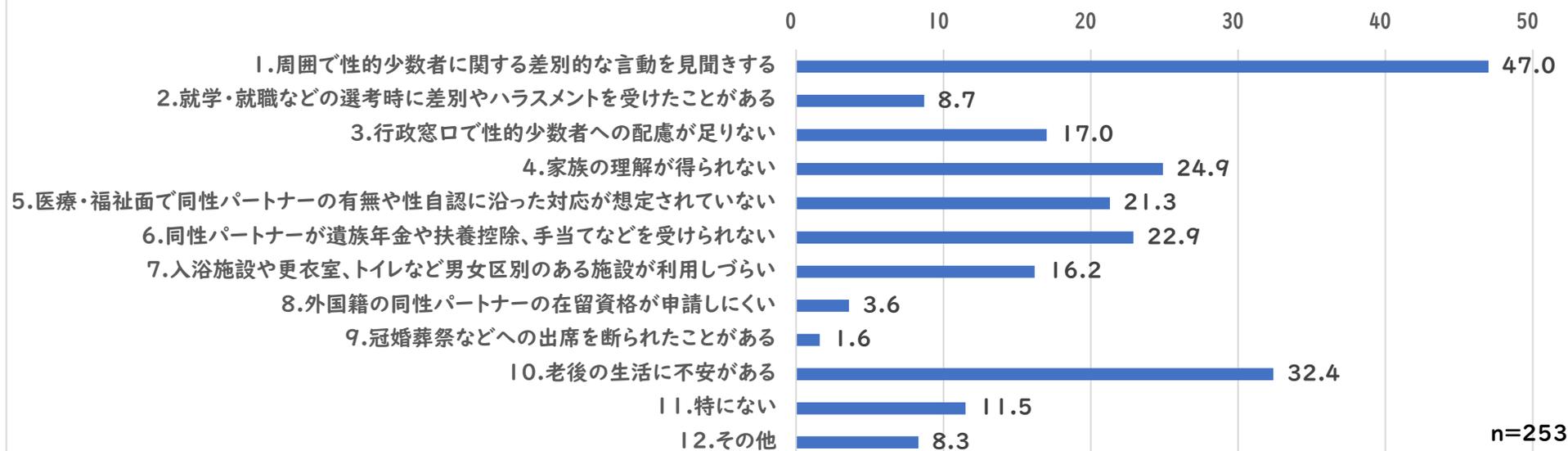
- ・全体では、「2.誰にも相談しない」と「3.友人」に相談されている割合とが、ほぼ同じで高い。
- ・「12.その他」の中では、SNSなどのインターネット上での相談が多く上げられている。

■問 29.当事者の方へお尋ねします。性的少数者として自分自身が悩んでいることや困っていることはありますか。【複数回答可】

当事者(性的少数者)本人の悩みや困りごと						
	T		非異性愛者		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.周囲で性的少数者に関する差別的な言動を見聞きする	44	51.8	75	44.6	119	47.0
2.就学・就職などの選考時に差別やハラスメントを受けたことがある	15	17.6	7	4.2	22	8.7
3.行政窓口で性的少数者への配慮が足りない	17	20.0	26	15.5	43	17.0
4.家族の理解が得られない	28	32.9	35	20.8	63	24.9
5.医療・福祉面で同性パートナーの有無や性自認に沿った対応が想定されていない	23	27.1	31	18.5	54	21.3
6.同性パートナーが遺族年金や扶養控除、手当などを受けられない	17	20.0	41	24.4	58	22.9
7.入浴施設や更衣室、トイレなど男女区別のある施設が利用しづらい	37	43.5	4	2.4	41	16.2
8.外国籍の同性パートナーの在留資格が申請しにくい	3	3.5	6	3.6	9	3.6
9.冠婚葬祭などへの出席を断られたことがある	3	3.5	1	0.6	4	1.6
10.老後の生活に不安がある	27	31.8	55	32.7	82	32.4
11.特にない	8	9.4	21	12.5	29	11.5
12.その他	10	11.8	11	6.5	21	8.3
無回答	12	14.1	45	26.8	57	22.5
合計	244	-	358	-	602	-
n	85		168		253	

「その他」の主な記述内容:パートナーの親に隠しているが、将来同棲するので隠すのが難しくなってきた / 女性同士だと経済的に不安 / 同性婚の制度がない / 職場でもありのままの自分でありたい / 複合的少数者なのでひとつのコミュニティで課題が解決しない / 性別欄がある身分証を提示するのが恥ずかしく病院等に行きにくい

当事者(性的少数者)本人の悩みや困りごと(全体)



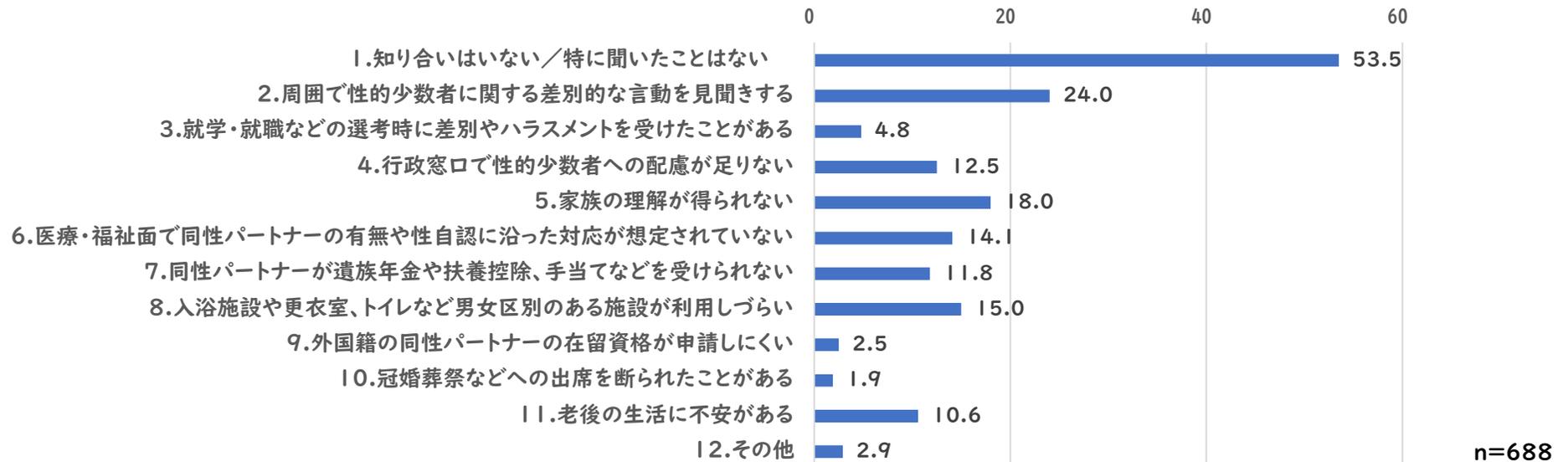
- ・「11.特にない」以外のいずれかを回答された方の実人数は、Tが85人のうち66人(77.6%)、非異性愛者が168人のうち104人(61.9%)であった。
- ・全体では、「1.周囲で性的少数者に関する差別的な言動を見聞きする」が47.0%と最も高く、次いで「10.老後の生活に不安がある」(32.4%)、「4.家族の理解が得られない」(24.9%)の順となっている。

■問 30.全員の方へお尋ねします。県内の性的少数者の知り合いの方が悩まれていることや困られていることはありますか。【複数回答可】

知人である性的少数者の悩みや困りごと		
	合計	
	回答数	割合
1.知り合いはいない／特に聞いたことはない	368	53.5
2.周囲で性的少数者に関する差別的な言動を見聞きする	165	24.0
3.就学・就職などの選考時に差別やハラスメントを受けたことがある	33	4.8
4.行政窓口で性的少数者への配慮が足りない	86	12.5
5.家族の理解が得られない	124	18.0
6.医療・福祉面で同性パートナーの有無や性自認に沿った対応が想定されていない	97	14.1
7.同性パートナーが遺族年金や扶養控除、手当てなどを受けられない	81	11.8
8.入浴施設や更衣室、トイレなど男女区別のある施設が利用しづらい	103	15.0
9.外国籍の同性パートナーの在留資格が申請しにくい	17	2.5
10.冠婚葬祭などへの出席を断られたことがある	13	1.9
11.老後の生活に不安がある	73	10.6
12.その他	20	2.9
無回答	62	9.0
合計	1,242	-
n	688	

「その他」の主な記載内容:家族からの結婚圧力が強い / DV などがあっても一時保護施設に入れない / 同性パートナーからお金をだまし取られたが相談できなかった / T の方の健康診断時の外部検診が認められなかった / 婚姻制度が使えず社宅に入れない / 同性パートナーがいることがばれ、家を追い出された / 通院できる病院が少ない

知人である性的少数者の悩みや困りごと



・性的少数者の「1.知り合いはいない／特に聞いたことはない」との回答が 53.5%で半数以上に上っているが、性的少数者である知り合いの方の悩みや困りごとについては、「2.周囲で性的少数者に関する差別的な言動を見聞きする」が 24.0%と最も高く、次いで「5.家族の理解が得られない」(18.0%)、「8.入浴施設や更衣室、トイレなど男女区別のある施設が利用しづらい」(15.0%)の順となっている。

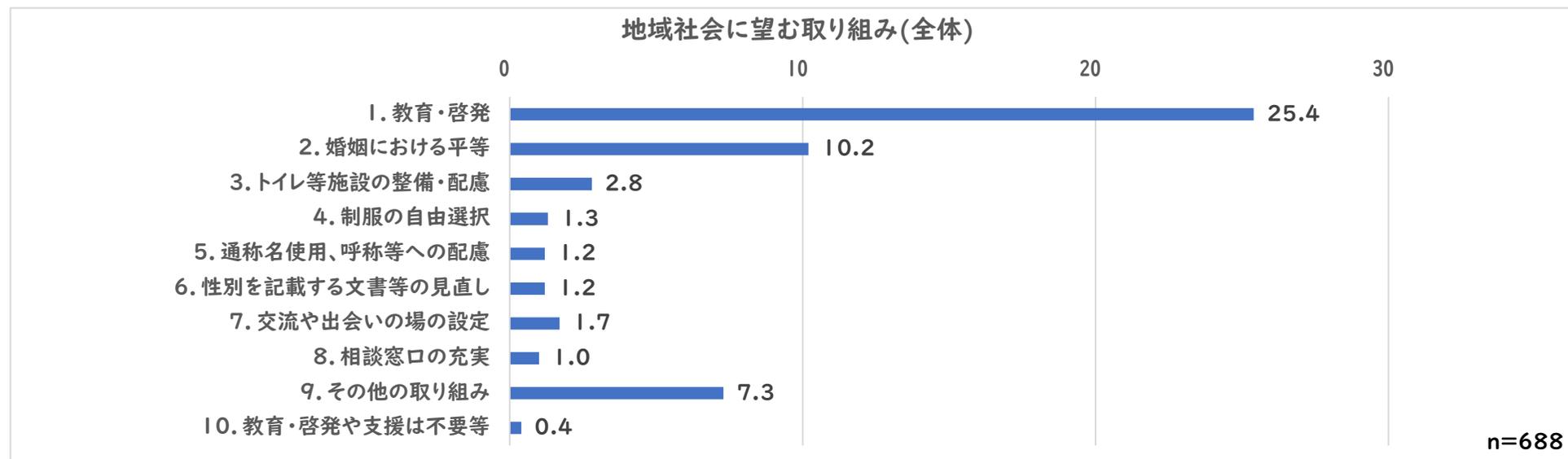
・「12.その他」の主な記述内容に記載のとおり、「その他」の中にも深刻な悩みや困りごとがあることがわかる。

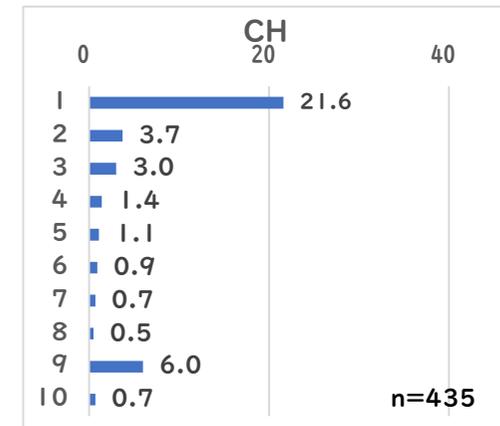
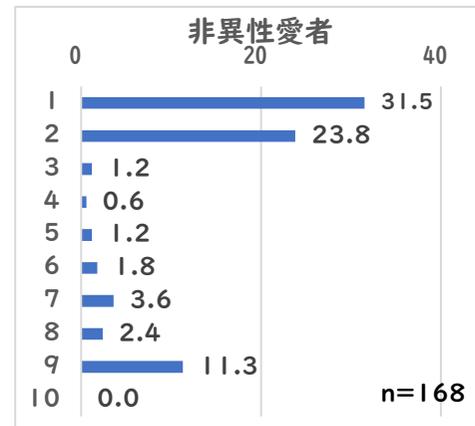
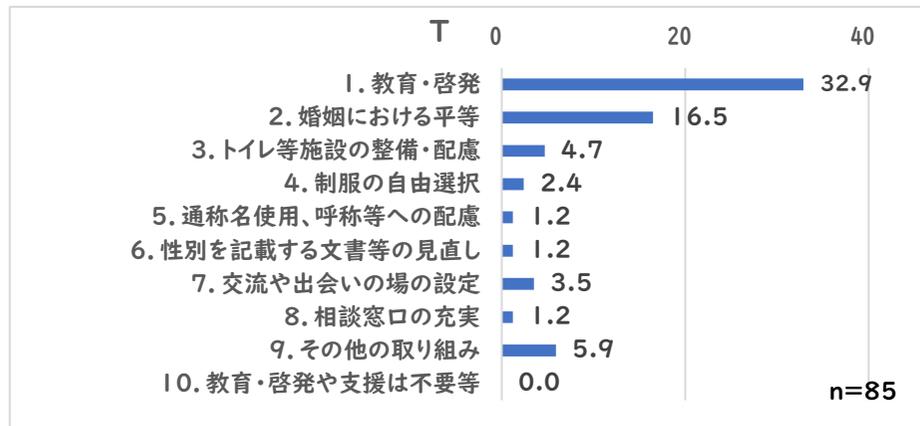
■問 31. 全員の方へ、今後、地域社会に望む性的少数者に関する取り組みがありましたら自由に記入してください。(自由記述)

(注) 記述された内容の趣旨を以下の項目に分類し、集計(1人で複数の要望もあり)

地域社会に望む取り組み								
	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1. 教育・啓発	28	32.9	53	31.5	94	21.6	175	25.4
2. 婚姻における平等	14	16.5	40	23.8	16	3.7	70	10.2
3. トイレ等施設の整備・配慮	4	4.7	2	1.2	13	3.0	19	2.8
4. 制服の自由選択	2	2.4	1	0.6	6	1.4	9	1.3
5. 通称名使用、呼称等への配慮	1	1.2	2	1.2	5	1.1	8	1.2
6. 性別を記載する文書等の見直し	1	1.2	3	1.8	4	0.9	8	1.2
7. 交流や出会いの場の設定	3	3.5	6	3.6	3	0.7	12	1.7
8. 相談窓口の充実	1	1.2	4	2.4	2	0.5	7	1.0
9. その他の取り組み	5	5.9	19	11.3	26	6.0	50	7.3
10. 教育・啓発や支援は不要等	0	0.0	0	0.0	3	0.7	3	0.4
合計	59	-	130	-	172	-	361	-
n	85		168		435		688	

※取組要望の割合が高かった「1.教育・啓発」と「2.婚姻における平等」の内訳については、「[付録]補足データ及び問 31・問 32 自由記述抜粋」に掲載





・性的少数者に関する取組要望を記述された方の実人数は、Tが85人のうち35人(41.2%)、非異性愛者が168人のうち67人(39.9%)、CHが435人のうち107人(24.6%)であった。
 ・全体では、「1.教育・啓発」の取り組みを望む声が25.4%と最も高く、次いで、パートナーシップ制度導入や異性婚と同等の法的支援などといった「2.婚姻における平等」の取り組みが10.2%となっている。

取組要望の主な内容

【1.教育・啓発】

- ・理解促進のための冊子配付
- ・ハラスメントや偏見を除くための県広報番組等での解説
- ・興味のない人を理解させる取り組み
- ・行政職員及び教職員の研修
- ・子どもの時期からの学校における教育
- ・職場での研修
- ・医療機関への周知啓発
- ・高齢者層への周知啓発

【2.婚姻における平等】

- ・長崎市のパートナーシップ制度のノウハウの県内への広まり
- ・異性カップルと同等の同性カップルへの法的支援

【3.トイレ等施設の整備・配慮】

- ・誰でも利用できるトイレの設置

【4.制服の自由選択】

- ・職場や学校での制服の自由選択

【5.通称名使用、呼称等への配慮】

- ・通称名を使用しやすい環境づくり
- ・保育所、幼稚園、学校での呼称の変更(男女で区別する「ちゃん」「くん」ではなく「さん」)

【6.性別を記載する文書等の見直し】

- ・公的な文書等における性別記載欄の必要性の見直し

【7.交流や出会いの場の設定】

- ・当事者同士がつながれる機会の創出
- ・各市町でのLGBTに関する活動や交流の場の設定

【8.相談窓口の充実】

- ・悩みなどを相談できる窓口の充実

【9.その他の取り組み】

- ・個々人の性自認によって生活に差異がないような法律や制度の整備
- ・性同一性障害への福祉的な助成金制度
- ・ジェンダーにとらわれず、個を大切にできる環境(教育現場・社会)を整える。

【10.教育・啓発や支援は不要等】

- ・現時点では支援の必要性を感じない

※ 「[付録] 補足データ及び問31・問32 自由記述抜粋」に、主なものを抽出して、取組要望の詳細を掲載

■問 32. 全員の方へ、長崎県内の性的少数者の実態等に関して、何かありましたら自由に記入してください。(自由記述)

※1 寄せられた意見等の中から、参考となる主なものを選び掲載している。

※2 掲載に際しては、原則として原文のままとしているが、明らかな誤字は訂正している。また、記述の一部を抜粋している場合がある。

[性的少数者の実態等に関すること]

意見等	年齢	セクシュアリティ分類
LGBT だけでなく、いろいろな思いや願い、考えを自由に表明でき、不利益を被らない制度的、心理的環境の整った故郷になることを切に願います。	21	CH
人と人のつながりが強いと、カミングアウトすると白い目で見られそうな感じがします。また、私だけならまだ大丈夫ですが、親も同じような感じで思われると考えるとカミングアウトできなくなってしまいます。 会社の経営者の方にも理解を得られる仕組みと社会教育をお願いできるようなことがあればいいかと思います。	28	非異性愛者
性的少数者の実態や県がどういった支援を行っているのか、もう少し発信してもいいと思う。	37	CH
性的少数者に対する設備が整うことはとてもいいと思うが、人々の性的少数者に対する考えといった根本的な部分が変わらないと、設備を利用しづらいままだと思う。	21	非異性愛者
義務教育内ではセクシャルマイノリティへの教育や言葉の言い回しに配慮が少なかったのが当事者だと言出しにくい、対処を得る為の行動を起こしにくい点があった。 現在高等学校に在学しているが私立高校ということもあってか小学校や中学校と比べて個々の性が大切にされていると感じる。しかし生徒間で見てみると差別的な表現、からかいをする人がいたりセクシャルマイノリティに対しての教育、考え方がまだまだ行き届いていないと感じられる。	17	非異性愛者
仕事関係で LGBT の話になったとき、ある町で「ここにはいませんから」と福祉担当課の方が言われたのにはとても驚いた。その言葉には、「そういったマイナス要因の人はいません」的な意味合いを強く感じた。いないのではなく、言えないのかも。想像力を働かせてほしい。公務員は全員が研修をうけるべきだと思う。	56	CH
長崎県が、性的マイノリティを想定し、取り組みを行っているという事実ははげまされている人がたくさんいて、私もその一人です。日常生活の中で差別的な言動はまだまだあふれていますが、県として、サポートや啓発の意思表示をすることで、県内の性的マイノリティをめぐる環境の底上げを図ることができると思っています。	30	非異性愛者
行政の取り組みがまだまだだと思うので、パートナーシップ制度の導入等もっと積極的に LGBT の問題に関心をもって欲しい。地元の性的少数者の方々がもっと住みやすい様な場所になってほしい。	29	非異性愛者
きちんと両性に分けられた地域社会でしか生きてこなかったのが、「別世界のこ」という認識が正直なところである。実在するのであれば、医学の進歩で元(生物学上の性別)に戻せないのかという思いもある。やっと男女平等が軌道に乗り出したのに、次は「第三、第四の性」。どう対応するのか、困ったものだと思う。	60	CH
以前勤めていた会社に当事者の方がいました。初めは性別がわからずトイレで驚いたことはありますが、自分は女性で産まれたけど、男性であることをカミングアウトされてからは、職場全体で認めみんなが平等に接していたと思います。変に隠しても不自然さが出ると思うので、オープンにしてもいいと私は思っています。	40	CH

意見等	年齢	セクシュアリティ分類
昔は差別ほどではないが変人扱いされていたが、現在ではメカニズムも解明され個性と認識されるようになりつつある。自分の学校時代には、認知されておらず教育もありませんでした。やっと追いついてきたものと思いますが、例えば自分の子供がそうなった場合に、どう感じるのか正直分かりません。	56	CH
想像できることは都市部以上に孤立し、緊張した状態で暮らしておられるのだと思います。私自身はこのアンケートで「アライ」という言葉を初めて知りました。知らないことが多々あることを自覚する良い機会でした。	45	T
特別感をもつのではなく、当たり前のこととして受け止めている人も増えていることを理解してほしい。	34	CH
アンケートの意図が不明。専門用語が多く、性的少数者が回答すること前提になっていると思えるため、アンケート結果を政策に反映することに不安を覚える。性的少数者ではない人間の意見は聞く気がないと感じました。	31	CH
このような調査は、非常にいいことだと思います。この課題の解決は時間がかかるので、根気強くいきたいと思います。	70	CH

※ 「[付録] 補足データ及び問 31・問 32 自由記述抜粋」に、上記掲載分を含め参考となる主なものを抽出し、記述された内容の趣旨で分類して掲載

[付録]

補足データ及び問 31・問 32 自由記述抜粋

■問 10.現在も含めこれまでの、あなた自身について回答してください。【複数回答可】

[年代別集計]

メンタルヘルスなどに関する状況								
【10代】	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.自分を大切に思えない	7	46.7	13	38.2	6	7.8	26	20.6
2.自分を受け止めてくれる人はいないように感じる	5	33.3	8	23.5	7	9.1	20	15.9
3.将来に希望を持つことができない	9	60.0	10	29.4	8	10.4	27	21.4
4.死んでしまいたいと思ったことがある	14	93.3	15	44.1	19	24.7	48	38.1
5.不登校経験がある	6	40.0	5	14.7	8	10.4	19	15.1
6.自分をわざと傷つけた(自傷行為)ことがある	7	46.7	7	20.6	3	3.9	17	13.5
7.自殺未遂をしたことがある	3	20.0	4	11.8	1	1.3	8	6.3
8.上記のような経験はない	1	6.7	14	41.2	45	58.4	60	47.6
無回答	0	0.0	1	2.9	4	5.2	5	4.0
合計	52	-	77	-	101	-	230	-
n	15		34		77		126	

メンタルヘルスなどに関する状況								
【30代】	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.自分を大切に思えない	5	31.3	5	19.2	13	16.5	23	19.0
2.自分を受け止めてくれる人はいないように感じる	7	43.8	8	30.8	14	17.7	29	24.0
3.将来に希望を持つことができない	7	43.8	13	50.0	20	25.3	40	33.1
4.死んでしまいたいと思ったことがある	10	62.5	14	53.8	29	36.7	53	43.8
5.不登校経験がある	6	37.5	3	11.5	5	6.3	14	11.6
6.自分をわざと傷つけた(自傷行為)ことがある	3	18.8	8	30.8	8	10.1	19	15.7
7.自殺未遂をしたことがある	4	25.0	8	30.8	4	5.1	16	13.2
8.上記のような経験はない	2	12.5	4	15.4	39	49.4	45	37.2
無回答	1	6.3	0	0.0	1	1.3	2	1.7
合計	45	-	63	-	133	-	241	-
n	16		26		79		121	

メンタルヘルスなどに関する状況								
【20代】	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.自分を大切に思えない	12	32.4	22	31.0	14	12.3	48	21.6
2.自分を受け止めてくれる人はいないように感じる	15	40.5	23	32.4	13	11.4	51	23.0
3.将来に希望を持つことができない	18	48.6	35	49.3	19	16.7	72	32.4
4.死んでしまいたいと思ったことがある	20	54.1	37	52.1	35	30.7	92	41.4
5.不登校経験がある	10	27.0	13	18.3	10	8.8	33	14.9
6.自分をわざと傷つけた(自傷行為)ことがある	18	48.6	14	19.7	9	7.9	41	18.5
7.自殺未遂をしたことがある	11	29.7	10	14.1	3	2.6	24	10.8
8.上記のような経験はない	6	16.2	19	26.8	66	57.9	91	41.0
無回答	0	0.0	1	1.4	1	0.9	2	0.9
合計	110	-	174	-	170	-	454	-
n	37		71		114		222	

メンタルヘルスなどに関する状況								
【40代】	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.自分を大切に思えない	2	18.2	9	37.5	9	12.9	20	19.0
2.自分を受け止めてくれる人はいないように感じる	6	54.5	9	37.5	8	11.4	23	21.9
3.将来に希望を持つことができない	5	45.5	14	58.3	8	11.4	27	25.7
4.死んでしまいたいと思ったことがある	5	45.5	17	70.8	20	28.6	42	40.0
5.不登校経験がある	4	36.4	4	16.7	6	8.6	14	13.3
6.自分をわざと傷つけた(自傷行為)ことがある	4	36.4	3	12.5	4	5.7	11	10.5
7.自殺未遂をしたことがある	4	36.4	4	16.7	5	7.1	13	12.4
8.上記のような経験はない	3	27.3	3	12.5	42	60.0	48	45.7
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	33	-	63	-	102	-	198	-
n	11		24		70		105	

メンタルヘルスなどに関する状況								
【50代】	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.自分を大切に思えない	0	0.0	1	20.0	6	7.5	7	7.8
2.自分を受け止めてくれる人はいないように感じる	1	20.0	0	0.0	6	7.5	7	7.8
3.将来に希望を持つことができない	0	0.0	1	20.0	10	12.5	11	12.2
4.死んでしまいたいと思ったことがある	2	40.0	2	40.0	14	17.5	18	20.0
5.不登校経験がある	0	0.0	0	0.0	3	3.8	3	3.3
6.自分をわざと傷つけた(自傷行為)ことがある	0	0.0	0	0.0	2	2.5	2	2.2
7.自殺未遂をしたことがある	2	40.0	0	0.0	3	3.8	5	5.6
8.上記のような経験はない	1	20.0	3	60.0	54	67.5	58	64.4
無回答	0	0.0	0	0.0	1	1.3	1	1.1
合計	6	-	7	-	99	-	112	-
n	5		5		80		90	

メンタルヘルスなどに関する状況								
【60代】	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.自分を大切に思えない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2.自分を受け止めてくれる人はいないように感じる	0	0.0	1	12.5	0	0.0	1	4.8
3.将来に希望を持つことができない	0	0.0	1	12.5	0	0.0	1	4.8
4.死んでしまいたいと思ったことがある	0	0.0	2	25.0	1	7.7	3	14.3
5.不登校経験がある	0	0.0	0	0.0	1	7.7	1	4.8
6.自分をわざと傷つけた(自傷行為)ことがある	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7.自殺未遂をしたことがある	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8.上記のような経験はない	0	0.0	4	50.0	10	76.9	14	66.7
無回答	0	0.0	1	12.5	1	7.7	2	9.5
合計	0	-	9	-	13	-	22	-
n	0		8		13		21	

メンタルヘルスなどに関する状況								
【70代】	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.自分を大切に思えない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2.自分を受け止めてくれる人はいないように感じる	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3.将来に希望を持つことができない	1	100.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3
4.死んでしまいたいと思ったことがある	1	100.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3
5.不登校経験がある	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6.自分をわざと傷つけた(自傷行為)ことがある	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7.自殺未遂をしたことがある	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8.上記のような経験はない	0	0.0	0	0.0	2	100.0	2	66.7
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	2	-	0	-	2	-	4	-
n	1		0		2		3	

■問 31. 全員の方へ、今後、地域社会に望む性的少数者に関する取り組みがありましたら自由に記入してください。(自由記述)

[教育・啓発の対象内訳]

地域社会に望む取り組み								
【1. 教育・啓発】	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1. 社会全般	14	16.5	25	14.9	52	12.0	91	13.2
2. 行政	0	0.0	3	1.8	3	0.7	6	0.9
3. 教職員	2	2.4	3	1.8	6	1.4	11	1.6
4. 児童・生徒等	7	8.2	12	7.1	24	5.5	43	6.3
5. 企業	3	3.5	3	1.8	3	0.7	9	1.3
6. その他	2	2.4	7	4.2	6	1.4	15	2.2
合計	28	-	53	-	94	-	175	-
n	85		168		435		688	

[婚姻における平等の内容内訳]

地域社会に望む取り組み								
【2. 婚姻における平等】	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1. パートナーシップ制度導入	10	11.8	22	13.1	8	1.8	40	5.8
2. 法律の制定(同性婚)	0	0.0	14	8.3	7	1.6	21	3.1
3. 異性婚との同等扱い(遺族年金、扶養控除、福利厚生等)	4	4.7	4	2.4	1	0.2	9	1.3
合計	14	-	40	-	16	-	70	-
n	85		168		435		688	

地域社会に望む取り組みの主なもの(詳細)

※ 掲載に際しては、原則として原文のままとしているが、明らかな誤字は訂正している。また、記述の一部を抜粋している場合がある。

地域社会に望む取り組み	年齢	セクシュアリティ分類
【1.教育・啓発】		
LGBT の理解促進のための冊子を県内に配布してほしい。	25	非異性愛者
変に取り上げ過ぎたり、押し付けたりするような政策ではなく、不自由がなくみんなが同じように過ごせるように受け入れていく政策が必要だと思う。	32	CH
先入観によるハラスメントや偏見を除くために、県の広報番組などで解説してほしい。	39	CH
性的少数者と言っても、細分化している事から理解をさせないといけないと考えます。また、結果を焦らないで進めていただきたい。急いで理解不足による反発を生みます。	56	CH
興味のない方々を理解させる取り組みをお願いしたいです。	46	T
当事者の方の講話に参加する機会を増やすこと。先日初めて講話を受けて、性的少数者に対する考え方や見方が大きく変わったからです。	21	CH
どんな場面でつらいと感じて、周囲の人にどんな取り組みをしてほしいのかなど、当事者の方々の気持ちを知りたい。支援したいが、なにをしていいのかわからない。	31	CH
とても身近で、だからこそ打ち明けることが難しい親世代以上の年代の方に、より性的マイノリティの方について、そしてジェンダーバイアス(女は女らしく等)について分かり易く、「いまはこんな考えもあるんだ」と少しでも気付いてもらえるような機会があれば、性的マイノリティの方だけでなく、全てのひとがより生きやすい社会を作る一歩になるのではないかと思います。	21	非異性愛者
広報誌などで啓発活動や情報発信を行うことで、研修等を積極的に受けに行かない人たちにも見てもらえるようにしてほしい。目に触れるだけでも、認識は広がると思う。	43	T
行政窓口での配慮	50	CH
行政職員全体への啓発実施・自治体などへの啓発	30	非異性愛者
教職員の研修などは早急に必要と思います。	39	CH
学校でセクシャルマイノリティのことをしっかり教育してほしい。	23	非異性愛者
性的少数者に関する正しい知識を、小中高でもっとちゃんと学びたかったです。そうであれば、周囲の悪気無い言葉にいちいち傷ついたり、自分のことを必要以上に責めたりすることはなかったのと思います。	23	非異性愛者
一番悩ましい時代は小中学校時代だと思います。不安も募るし心細い。なので、地域や学校の図書館に、性の多様性を示唆する絵本などが置いてあると子供にはありがたいのではないのでしょうか。	48	T
職場での講演や講習会、勉強会が必要だと思う。	45	CH
性的指向・自認に起因する職場における差別禁止に関する研修会。	45	非異性愛者
医療福祉サービスを利用する際に、全ての医療機関へ性的マイノリティを想定した対応が行えるような啓発の実施	30	非異性愛者
若者だけに呼びかけるだけでなく、高齢者にも広い年齢層に知ってもらう方が良く思う。	19	CH
【2.婚姻における平等】		
長崎市がパートナーシップ制度の取り組みを開始するようだが、そのノウハウができるだけ早くに県内に広まることを期待する。	63	CH

地域社会に望む取り組み	年齢	セクシュアリティ分類
長崎県として同性パートナーシップ制度の導入を強く希望します。	25	非異性愛者
パートナーシップ法の導入を求めますが、もし導入されたとしても利用するかは考えます。利用すれば職場でカミングアウト(事務手続きなどで)することになるのではと思います。	44	非異性愛者
パートナーシップ制度など公的な機関が支援してくれることが一番守られていると感じることが出来ると思う。	21	非異性愛者
同性カップルへの異性カップルと同等の法的支援	29	非異性愛者
同性婚が日本でもできるようにすることを希望します。	48	非異性愛者
扶養控除や手当を受けたいです。職場の互助会に結婚手当等あるが同性間で結婚できないため、不平等だと感じる。	29	非異性愛者
【3.トイレ等施設の整備・配慮】		
誰でもトイレの設置をもっと多く作って欲しいです。商業施設やイベント会場など人が多い場所は車椅子トイレが空いていない事が多く、外出がしにくい状況です。	37	T
不特定多数の人が利用する施設(トイレなど)については、ジェンダーレスなどの工夫が必要。	70	CH
車椅子の方が使うトイレは、車椅子の方だけでなく「誰でも使える」ということを広く知らせ、ぱっと見てわかるような身体障害がなくても、性同一性障害の方なども安心して使えるようにする。	38	CH
【4.制服の自由選択】		
職場や学校での自分の望む性の制服着用	27	T
【5.通称名使用、呼称等への配慮】		
通称名を使用しやすい環境作り	28	非異性愛者
保育所、幼稚園から、男女で分けない、「くん、ちゃん」づけてなく「さん」と呼ぶ。	47	CH
学校の名簿についても男女混合名簿を推進するような教育委員会の取り組みがあると保護者等の関心も高くなるのではないかと。	54	CH
すべての公的な場所で、男女を色(女性はピンク、男性はブルーなど)で分けて表示することをやめる。	54	CH
【6.性別を記載する文書等の見直し】		
必要ない性別記載の削除(定期券など)	42	非異性愛者
公文書の性別記載欄の有無と必要性の見直しと実施	30	非異性愛者
【7.交流や出会いの場の設定】		
性的少数者向けの、真面目な出逢いの場が欲しいです。	23	非異性愛者
当事者同士がもっと繋がれる機会があればいいと思う。	26	非異性愛者
各市町村でも、LGBTに関する活動や、情報共有の場、交流会等があれば良いと思います。	37	T
【8.相談窓口の充実】		
相談窓口の充実を図ってもらえたら助かると思う。	60	非異性愛者
【9.その他の取り組み】		
長崎は海外からの留学生や観光客も多く、多様性がある社会であることもあり、他の地域に比べても、性的少数者への取り組みを先陣を切って進めていく立場にあるのではないかと。	20	非異性愛者

地域社会に望む取り組み	年齢	セクシュアリティ分類
個人の性自認によってその人の暮らし方が変わる事がないように、まずは、法的に、制度的に今までのあり方を変えていく努力を、行政がしてほしい。	60	CH
ジェンダーにとらわれず、個を大切にできる環境を整える。	56	CH
性同一性障害に関してですが福祉的にサポートできる助成金制度も作って欲しいです。	39	T
性別適合手術が日本国内で安全に行えるようにする。「性同一性障害」の診断があれば保険適用されるようにする。	38	CH
性的少数者の方が気兼ねなくショッピングなどができる機会の提供を望みます。	31	CH
市民が行政に関わるごとに、自分たちは性的少数者と一緒に暮らしているのだと意識せざるをえない仕組みや工夫を地道にやってもらいたい。	42	CH
民間の業者さん達が直接企画・参加するイベントや LGBT のニーズに直接答えていく新しいビジネスへのアプローチも大切だと思います。	48	非異性愛者
【10.教育・啓発や支援は不要等】		
LGBT に関して寛容になることは必要であると思うが、それと同様に LGBT をいやだと思ふ意見を一方的に否定する昨今の風潮は良くないと思う。被害者を過剰に擁護する風潮は良い傾向ではなく、より一層 LGBT の風当たりを強くすると思う。	25	CH
私の認識不足なのか現時点では支援の必要性を感じない。	53	CH

■問32. 全員の方へ、長崎県内の性的少数者の実態等に関して、何かありましたら自由に記入してください。(自由記述)

※1 寄せられた意見等の中から、参考となる主なものを選び掲載している。

※2 掲載に際しては、原則として原文のままとしているが、明らかな誤字は訂正している。また、記述の一部を抜粋している場合がある。

[性的少数者の実態等に関すること]

意見等	年齢	セクシュアリティ分類
【社会の理解に関するもの】		
LGBTの方々が自分らしく堂々と生きられる社会になることを希望します。	35	CH
LGBTだけでなく、いろいろな思いや願い、考えを自由に表明でき、不利益を被らない制度的、心理的環境の整った故郷になることを切に願います。	21	CH
まだまだ偏見が根強くあると感じます。	53	CH
私は生活に支障が無いが、支障のある人達にとって、どんな行動が手助けになるのかを知りたい。誰もが当たり前で暮らせて、憲法に保障された権利を享受できる県にしていきたい。	39	T
性的少数者は多数者に圧迫されて自分の権利をうまく使えないので、社会的弱者になってしまい大変ですが、性的少数者だからといって、特別視されたくないで、それを配慮してほしいと考えます。	21	非異性愛者
性的マイノリティとか障害者ということに限らず、私たちはみんなどこかに他の人とは違うマイノリティな部分を持ち合わせていると思います。「みんな違ってみんなダメ」などころはある。だけど、全然問題なく補え合え、許し合える社会であることを願います。	38	CH
【不安・生きづらさに関するもの】		
LGBTの人はLGBTであることを隠して生活しており、知らないうちにストレスがたまっている。	25	非異性愛者
パートナーと住むために私は県外から引っ越してきましたが、長崎は閉鎖的で保守的に感じますので、カミングアウトしづらい環境にあると思います。行政が一先懸命取り組んでも、住む人たちの意識が変わらなければなかなか表に出てこない問題でもあります。	44	非異性愛者
職場では特に男性からの理解が得られにくい感覚を受けます。今回のアンケートを機に、サポートしてくださっている方もいることを思い出し、あきらめずに暮らしていきたい、機会があれば利用したいと思いました。	30	非異性愛者
人と人のつながりが強いので、カミングアウトすると白い目で見られそうな感じがします。また、私だけならまだ大丈夫ですが、親も同じような感じで思われると考えるとカミングアウトできなくなってしまいます。会社の経営者の方にも理解を得られる仕組みと社会教育をお願いできるようなことがあればいいかと思います。	28	非異性愛者
「男らしく」「女らしく」といった性差別の発言はだんだん減ってきているような気がしますが、恋人はいるのか？結婚は？子供は？といった話をされるのは、ノンセクシャルである私にはとても辛いです。	24	非異性愛者
年下にLGBTの方がいて、その人は、誰にも言っていない、隠していれば別に困ることはないと言っていた。でも、思春期の時、性自認が人と違う事に気づいたみたいで、きつかった思いをしたと聞いた。	38	CH
【啓発・支援等の取り組みに関するもの】		
私は九州圏内の他の県からやって来ましたが、長崎は活動も盛んで頑張っていると思います。これからも応援しています。	23	T
まずは数や状況を見える化すること、それをもとに当事者もアライもそうでない人も対等に話ができる場を作っていくことが、誤解や偏見をなくすことに繋がると思います。	60	非異性愛者
性的少数者の実態や県がどういった支援を行っているのか、もう少し発信してもいいと思う。	37	CH
長崎市では、パートナーシップ協定の実施などのとりくみが報道されてるが、その他の地域では、性的少数者については「ひとごと」と捉えられている様に、関心が薄い。県として、人権問題であるとしてらえた啓発がもっとされてもいいと思う。	60	非異性愛者

意見等	年齢	セクシュアリティ分類
学校の制服なども自由に選択できる学校もあり、少しずつ柔軟な対応が広がっていると感じる。型にはめるのではなく、一人一人の多様性を理解して、誰にとっても、生活しやすい県になると良いと思う。	40	CH
もっと、市や県が積極的に話題に挙げて、周知してもらうことが必要だと思う。身近な存在だということを知ることが大切だとおもうので	19	CH
性的少数者に対する設備が整うことはとてもいいと思うが、人々の性的少数者に対する考えといった根本的な部分が変わらないと、設備を利用しづらいままだと思う。	21	非異性愛者
県が先陣を切って、意識啓発や各種施策の導入について、もっと具体的に取り組むことが必要と感じます。福岡や東京に出て行かなくても、長崎で性的少数者が自分の将来を描けるよう、普通に生活できるようになることを願っています。そのためにも、行政による取り組みがとても重要だと思います。	45	非異性愛者
義務教育内ではセクシャルマイノリティへの教育や言葉の言い回しに配慮が少なかったのが当事者だと言出しにくい、対処を得る為の行動を起こしにくい点があった。 現在高等学校に在学しているが私立高校ということもあってか小学校や中学校と比べて個々の性が大切にされていると感じる。しかし生徒間で見てみると差別的な表現、からかいをする人がいたりセクシャルマイノリティに対しての教育、考え方がまだまだ行き届いていないと感じられる。	17	非異性愛者
未だに差別用語を使ったり、理解が足りない県民がほとんどだと思います。当事者へのサポートはもちろんのこと、それ以外の県民へ、そもそも性的マイノリティとは何なのか等の基礎的な教育が必要です。義務教育に取り組むと良いでしょう。その為には教育者の教育も必要です。	30	CH
仕事関係で LGBT の話になったとき、ある町で「ここにはいませんから」と福祉担当課の方が言われたのにはとても驚いた。その言葉には、「そういったマイナス要因の人はいません」的な意味合いを強く感じた。いないのではなく、言えないのかも。想像力を働かせてほしい。公務員は全員が研修をうけるべきだと思う。	56	CH
長崎県が、性的マイノリティを想定し、取り組みを行っているという事実ははげまされている人がたくさんいて、私もその一人です。日常生活の中で差別的な言動はまだまだあふれていますが、県として、サポートや啓発の意思表示をすることで、県内の性的マイノリティをめぐる環境の底上げを図ることができると感じています。	30	非異性愛者
【パートナーシップ制度・同性婚に関するもの】		
行政の取り組みがまだまだだと思うので、パートナーシップ制度の導入等もっと積極的に LGBT の問題に関心をもって欲しい。地元の性的少数者の方々がもっと住みやすい様な場所になってほしい。	29	非異性愛者
【啓発・支援等取り組みへの疑問・異論】		
きちんと両性に分けられた地域社会でしか生きてこなかったのが、「別世界のこ」という認識が正直なところである。実在するのであれば、医学の進歩で元(生物学上の性別)に戻せないのかという思いもある。やっと男女平等が軌道に乗り出したのに、次は「第三、第四の性」。どう対応するのか、困ったものだと思う。	60	CH
長崎県民は、基本的に心が広く優しい県民だと体感している。家族(マイノリティ)は、誰一人 学校・職場・地域で差別やいじめ等は受けた経験がない。ただし、客観的に性的少数者の立場や理解や知識は低い印象がある。	49	非異性愛者
長崎は性的少数者に限らず周囲と違うのはだめだという空気が強いです。どういう取り組みをしようとも変わらないのではないのでしょうか。	32	CH
【その他】		
以前勤めていた会社に当事者の方がいました。初めは性別がわからずトイレで驚いたことはありますが、自分は女性で産まれたけど、男性であることをカミングアウトされてからは、職場全体で認めみんなが平等に接していたと思います。変に隠しても不自然さが出ると思うので、オープンにしてもいいと私は思っています。	40	CH

意見等	年齢	セクシュアリティ分類
最近LGBTやハラスメントなどについてテレビで放映されていたり、ネットで調べたりしたが、自分の周りに当事者と思われる方がいないので、正直なところ初めて知ったということが多かった。	46	CH
特に意識せず普通に接することを心掛けている。	62	非異性愛者
昔は差別ほどではないが変人扱いされていたが、現在ではメカニズムも解明され個性と認識されるようになりつつある。自分の学校時代には、認知されておらず教育もありませんでした。やっと追いついてきたものと思いますが、例えば自分の子供がそうなった場合に、どう感じるのか正直分かりません。	56	CH
想像できることは都市部以上に孤立し、緊張した状態で暮らしておられるのだと思います。私自身はこのアンケートで「アライ」という言葉を初めて知りました。知らないことが多々あることを自覚する良い機会でした。	45	T
特別感をもつのではなく、当たり前のこととして受け止めている人も増えていることを理解してほしい。	34	CH
【本アンケートに関するもの】		
このアンケート調査の結果に、とても関心がある。	63	CH
このアンケートの「当事者」とか「実態」とか言葉の言い回しが何か感じ悪いなと思います。	37	CH
長崎の苦しんでいる性的少数者の皆さんにとって、このアンケートが大きな希望となっていくように願っています。	35	CH
アンケートの意図が不明。専門用語が多く、性的少数者が回答すること前提になっていると思えるため、アンケート結果を政策に反映することに不安を覚える。性的少数者ではない人間の意見は聞く気がないと感じました。	31	CH
このような調査は、非常にいいことだと思います。この課題の解決は時間がかかるので、根気強くいきたいと思います。	70	CH
このアンケートは大変ややこしいと思います。用語をかみ砕いて説明してほしいのと、条件付き設問について、色分けするなどして、該当するしないを判別しやすくしてほしいです。	34	CH

◆本アンケート結果の概要は、下記ホームページからダウンロードできます。

長崎県人権・同和対策課 クリック

(<http://www.pref.nagasaki.jp/section/jinken/>)



県民生活部 人権・同和対策課

〒850-8570 長崎市尾上町3-1

TEL 095-826-2585

FAX 095-826-4874